

第1学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

めあてを決める（1～3年）

情報の表現
あらわす

情報の収集
情報をあつめる

情報の発信
伝える

情報の分析・整理
情報をまとめる

情報活用の評価・改善
ふりかえる

	単元名	学習内容	ICTの 効果的活用
話す ・ 聞く	いい てんき 2時間（話・聞②） ◎互いの話に関心をもつことができる。（思・判・表A(1)オ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■ 絵を見て話したり応答したりする。 ☆学校生活（生活科）	1 P0-3の挿絵を見て、何をしているのか、気づいたことや想像したことを話す。	
		2 P4-7の挿絵を見て、気づいたことや想像したことを言ったり、絵の中の人物になりきって話したりする。	
		3 P8を教師に合わせて声に出す。想像したこと等を話す。	
	あつまって はなそう 1時間（話・聞①） ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表A(1)エ） ・言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■ 目的に沿って、話したり聞いたりする。	1 教師の示した絵を見て、好きなものを選ぶ。	
		2 同じものを選んだ人で集まり、選んだ理由を伝え合う。	
		3 違うものを選んだ人に選んだ理由を伝えたり、相手の話を聞いて感想を話したりする。	

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	どうぞ よろしく 3時間（話・聞②、書①） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○経験したことから書くことを見つけ、伝えたい事柄を明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ・丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■ 名前カードを使って、友達と交流する。	1 P16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。	
		2 友達とペアになり好きな遊びについてきく。	
		3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 ・P29の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。	
		4 名前カードを交流する。 ・挨拶、名前、好きなもの等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。	
		5 教師と活動の振り返りをする。	
	なんて いおうかな 2時間（話・聞②） ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。（知・技(1)キ） ■ 場面に応じた言葉や動作を考えて、伝え合う。	1 P18-19の絵を見て、何をしてどんな話をしている場面なのか出し合う。	
2 それぞれの場面に合った言葉や動作を考えてやり取りしたり、発表したりする。 ・教師に対する言葉遣いと友達どうしの言葉遣いの違いを考える。			

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>こんな 物 見つけたよ 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>・言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>■見つけたものや思ったことを友達に紹介する。</p>	<p>1 校内で見つけたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描く。</p> <p>2 絵を使って、自分で見たことや見て思ったことを友達に紹介する。 ・みんなの前で話すときの言葉遣いを考えて話す。</p>	
	<p>ききたいな、ともだちの はなし 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表 A(1)エ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表 A(1)ウ)</p> <p>■応答したり、感想を伝えたりする。</p>	<p>1 P28-29 を読み、教師の説明を聞いて、活動内容を知る。</p> <p>2 友達とペアになり好きな遊びについてきく。</p> <p>3 分かったことや感想を、声の大きさや速さに気をつけて全体に知らせる。 ・P29 の挿絵を参考に、話し手を見て話を聞くことを知る。</p> <p>4 聞き手と話し手を交代して、2 の活動をする。</p> <p>5 教師と活動の振り返りをする。</p>	
	<p>わけを はなそう 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表 A(1)イ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>■感じ方とそのわけを話す。</p>	<p>1 P48 の話型を確認し、P49 の挿絵を見て、顔の表情と出来事から女の子の気持ちやそのわけを考える。 ・顔の表情から、どんな気持ちかを考え「わたしは□□です。」に気持ちを表す言葉を入れる。 ・「どうしてかという、□□だからです。」に理由となる出来事を入れる。</p> <p>2 P49 の挿絵や教師の用意した絵等をもとに、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。</p> <p>3 自分で経験したことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。</p>	

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>ききたいな、ともだちの はなし 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■話をよく聞き、質問や感想を述べる。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P100を見て夏休みの経験を話す際の具体的なイメージをもつ。 ・「ともだちのなつやすみのようすを、しっかりきこう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 夏休みの出来事を思い出して題材を決める。</p> <p>3 知らせたいことの内容を考える。 ・P100を参考に、内容や話し方を考えて練習する。 ・知らせたいことを絵に描いて準備をしてもよい。</p> <p>4 発表の方法を知る。 ・みんなが聞きやすい話し方(声の大きさや速さ)を考える。 ・P101を参考に、集中して聞いていることに気づく。</p> <p>5 夏休みの経験を発表して聞き合う。 ・伝えたいことを工夫して話す。 ・聞く人は、質問をしたり、感想を言ったりする。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	
	<p>ともだちの こと、しらせよう 6時間 (話・聞③、書③)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>・身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■友達に質問し、紹介する文章を書く。</p>	<p>1 もっと友達のことを知ってもらうために、「ともだちがいまいちばんたのしいことを、みんなにしらせよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 友達への尋ね方を学ぶ。 ・音声CDを聴く。</p> <p>3 友達に質問する。 ・教えてくれたことに対する感想や、友達に知らせるために、もっと聞きたいことを伝える。 ・友達から聞いたことをノートにメモする。 ・「たいせつ」で、友達の話を聞くときに気をつけることを確認する。</p> <p>4 友達から聞いたことを文にする。 ・教材文を参考に、友達の「たのしいこと」が伝わるように言葉を選んで文にする。</p> <p>5 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 ・「たいせつ」で、交流の観点を確認する。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・友達にインタビューしたとき、それを文章にしたとき、文章を読み合ったときの学びを振り返る。</p>	<p>○ ミライシード</p> <p>①インタビュー 内容をカード に書く。</p> <p>②並べ替えて文 の構成を考え る。</p> <p>③作文</p>
	<p>わけを はなそう 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■感じ方とそのわけを話す。</p>	<p>1 P48の話を確認し、P49の挿絵を見て、顔の表情と出来事から女の子の気持ちやそのわけを考える。 ・顔の表情から、どんな気持ちかを考え「わたしは□□です。」に気持ちを表す言葉を入れる。 ・「どうしてかという、□□だからです。」に理由となる出来事を入れる。</p> <p>2 P49の挿絵や教師の用意した絵等をもとに、二人組で学んだ話型を使って伝え合う。</p> <p>3 自分で経験したことを、学んだ話型を使って話す。 ・二人組で交流した後、グループや全体で発表する。</p>	

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>ものの 名まえ 6時間 (知・技④, 話・聞②)</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づくことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>■尋ねたり、応答したりする。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物をしたときの経験を出し合い、店での言葉のやり取りに関心をもつ。 ・ P60-61 を見て、「ものの名まえをみつめておみせやさんごっこをしよう」という学習課題を確認する。 <p>2 教材文を読み、物の名前には上位語と下位語があることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材文に出てくる物の名前を上位語と下位語に整理してノートに書く。 ・ 身の回りの物の名前を集め、上位語と下位語に分けてノートにまとめる。 ・ 集めた言葉を発表し合う。 <p>3 「おみせやさんごっこ」の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 で発表し合った身の回りの物の名前を参考にして、開きたいお店ごとにグループを作る。 ・ 上位語で看板やポスターを、下位語で品物カードを作る。 ・ 教科書を参考にして、グループごとに「お店の人」と「お客さん」の話し方を練習する。 <p>4 「おみせやさんごっこ」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「お店の人」と「お客さん」の言葉のやりとりを楽しむ。 	<p>○</p> <p>デジタル教科書</p> <p>物の名前に線を引く。</p> <p>ミライシード</p> <p>カードにまとめる。</p>
	<p>ききたいな、ともだちの はなし 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表 A(1)エ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>■紹介を聞いて、質疑応答する。</p>	<p>1 自分の好きな本を友達に紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師のお手本を聞き、これからの学習に見直しをもつ。 ・ どの本を友達に紹介するか決める。 ・ 知りたいことを考えながら聞き、もっと知りたいことを質問する。 <p>2 教師と活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本を紹介し合う活動の振り返りをし、これからも友達と本を紹介し合えるよう、意識して読書していくことを確認する。 	
	<p>これは、なんでしょう 4時間 (話・聞④)</p> <p>◎互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) <p>■二人で相談し、考えをまとめる。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師から問題を聞いたり、教材文を読んだりして、クイズの大まかなルールを把握する。 ・ 「ふたりでもんだいをかんがえて、クイズたいかいをしよう」という学習課題を確認する <p>2 二人組を作り、クイズの問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題にするものを決める。 ・ 決めたものの特徴(色や形、はたらき、様子など)をノートに書き出す。 <p>3 問題の出し方を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音声CDを聞いて問題の出し方を確かめ、話し合いのしかたを学ぶ。 ・ 書き出したことをどのような順番で言うのかを決め、練習する。 	<p>○</p> <p>ミライシード</p> <p>①ヒントカードを作る。</p> <p>②ヒント出す順番考える・</p> <p>③答えの写真を提示する。</p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
		4 「これは、なんでしょう」クイズ大会をする。 ・二人組で、出題したり、答えたりする。 ・解答者は、出題者の二人に問題の出し方について感想を伝える。	
		5 学習を振り返る。 ・二人で感想を出し合い、話し合うときにどのようなことが大切か、気づいたことを出し合う。 ・「たいせつ」で話し合うときに大切なことを確かめる。	

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
書 く	ぶんをつくろう 4時間 (書④) ◎文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(知・技(1)カ) ○句点の打ち方を理解して文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語の続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■主語と述語を意識して文を書く。	1 P44の挿絵を見て、「わたしが はなす。」「みんなが わらう。」を読む。 ・主語や述語に注意し、「一が一。」の文型であることに気づく。 ・主語・述語・句点を意識して、P44の文を視写する。	
		2 P45の挿絵を見て、「一が一。」の文を見つけたりノートに書いたりする。	
		3 日常生活から、「一が一。」の文を見つけたりノートに書いたりする。	
	ねことねっこ 2時間 (書②) ◎促音の表記、助詞の「は」の使い方、句読点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語の続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■促音や半濁音のある言葉を使って文を書く。	1 P46の唱歌をいろいろな言い方で楽しく読み、促音に気づく。	
		2 P47を見て、一語一語唱えながら促音の読み方を確認する。	
		3 P47を見て、促音のある言葉を平仮名で書き、促音のある言葉を集める。	
		4 P47の言葉の中の清音、濁音、半濁音を、書き順や濁点、半濁点の位置に気をつけて書く。	
		5 濁音、半濁音のある言葉と助詞「は」を使って、簡単な文を書く。	
	おばさんと おばあさん 2時間 (書②) ◎長音の表記、助詞の「を」の使い方、句点の打ち方を理解し、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語の続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■長音のある言葉を使って文を書く。	1 P50の唱歌をリズムに気をつけ読む。 ・長音になることで言葉の意味が変わるものがあることに気づく。	
2 P51の長音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。			
3 長音のある言葉を集めてノートに書いたり、友達と交流したりする。			

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>おもちゃと おもちゃ 2時間 (書②)</p> <p>◎拗音の表記, 助詞の「へ」の使い方, 句点の打ち方を理解し, 文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>・語と語の続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■拗音のある言葉を使って文を作る。</p>	<p>1 P60 の唱え歌をリズムに気をつけて読み「おもちゃ」と「おもちゃ」の言葉の違いに気づく。</p> <p>2 P61 の拗音のある言葉を読んだり書いたりする練習をする。</p> <p>3 拗音のある言葉を集めて, ノートに書いたり交流したりする。</p> <p>4 拗音のある言葉を使って文を書く。 ・「—へ—。」という助詞「へ」を使った文を書く。</p>	<p>○ ジャムボード</p> <p>見つけた言葉の交流</p>
	<p>おおきく なった 4時間 (書④)</p> <p>◎観察したことなどから書くことを見つけ, 必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し, 文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■観察したことを記録する文を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・生活科で育てている植物の様子を想起し, 「よくみて くわしくかく」という学習課題を確認する。</p> <p>2 どんな観点で観察したいかを出し合う。 ・出し合ったものを, P66 の観点でまとめたり, 教科書に出ていないものをクラス全体で共有したりする。</p> <p>3 観察記録の書き方を知る。 ・P66-67 の二つの作例を読み, 書かれている観点と書き方の共通点・相違点を見つける。</p> <p>4 観察記録を書く。 ・生活科で育てている植物を観察し, 観点を想起して気づいたことをメモしたり絵に描いたりする。 ・メモを見て, 二つの作例の書き方から選んで観察記録を書く。 ・P124 を参考にして, 横書きのカードの書き方を</p>	<p>○ ミライシード</p> <p>※観察の観点カードを事前に準備</p> <p>①観点カードに書く。</p> <p>②選択して作文。</p>
	<p>はをへを つかおう 3時間 (書③)</p> <p>◎助詞の「は」, 「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>・語と語や文と文との続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■助詞「は」「を」「へ」を使って文を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・教科書を見て, 「すきなものをともだにしようかいしよう」という学習課題を確認する。</p> <p>2 好きなものを, グループの友達に紹介する。 ・いちばん好きなものを選んで, 絵に描いて紹介の準備をする。 ・聞いたことについて, 感想を言ったり理由を尋ねたりする。 ・理由を言うと, 好きなことが相手によく伝わることに気づく。</p>	

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
書		<p>3 カードを交換して読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の作ったカードを読み、感想を伝え合う。 ・ クラスで図鑑としてまとめる際、どんな順番でページに並べるか話し合う。 	
		<p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容を伝えるための情報の選び方、順序を考えた説明文の構成のしかたを学んだことを「たいせつ」を確認して振り返る。 	
	<p>かたかなを かこう</p> <p>2時間 (知・技①, 書①)</p> <p>◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語と語との続き方に注意しながら、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■片仮名の言葉を集める。 	<p>1 身近なものの中で、片仮名で表記する語を出し合う。</p> <p>2 教科書にある片仮名で書く言葉をノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 片仮名の長音・拗音・促音の表し方を確認する。 <p>3 片仮名で書く言葉を集め、短文を作る。</p> <p>4 作った短文を友達と交流する。</p>	<p>○</p> <p>ジャムボード</p> <p>カタカナ言葉の交流</p>
く	<p>むかしばなしを よもう</p> <p>おかゆの おなべ</p> <p>8時間 (書④, 読④)</p> <p>◎読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。(知・技(3)エ)</p> <p>○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>■昔話を読み、感想を伝え合う。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知っている昔話や読んでみたい昔話を出し合う。 ・ P42-43 を見て、「いろいろなむかしばなしをよんで、ともだちにしらせよう」という学習課題を確認する。 <p>2 カードの書き方を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「おかゆの おなべ」を読む。 ・ お話の好きなところやおもしろかったところなどを伝え合う。 ・ P55 を参考に、カードの書き方を確認する。 	

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
書		<p>3 読みたい昔話を選んで読み、カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードの書き方を再度確かめる。 	
		<p>4 友達のカードを読んで感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを読み、さらに物語を読んだり、カードに対する感想を書いたりする。 	
		<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔話を読んで紹介カードを交流し合った学習から、学んだことや感じたことを振り返る。 	
く	<p>日づけと よう日 3時間 (知・技①, 書②) ◎身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■唱え歌を作る。</p>	<p>1 日付歌を唱える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日付歌に出てくる漢字の読み方を学び、日付歌を声に出して練習する。 ・日付歌に出てくる漢字の練習をする。 	
		<p>2 曜日歌を唱える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曜日歌に出てくる漢字の読み方を学び、曜日歌を声に出して練習する。 ・曜日歌に出てくる漢字の練習をする。 	
		<p>3 自分の日付歌、曜日歌を作る。</p>	
	<p>てがみで しらせよう 6時間 (書⑥) ◎文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表B(1)エ) ○語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。(知・技(1)キ) ■伝えたいことを手紙に書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いたり、もらったりした経験を出し合う。 ・教材文を読み、「うれしかったことやたのしかったことを、てがみにかいてしらせよう」という学習課題を確認する。 	
		<p>2 カードの書き方を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おかゆの おなべ」を読む。 ・お話の好きなおもしろかったところなどを伝え合う。 	
		<p>3 手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P66-67の作例を参考に、クラス全員で共通の相手に手紙を書き、書き方を確かめる。 ・間違いがないか、読み返し、投函したり、渡したりする。 	
		<p>4 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いた感想を交流する。 ・「たいせつ」で手紙の書き方を確認し、自分の気持ちを書くことができたかを振り返る。 	

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
書 く	かたかなの かたち 3時間 (知・技②, 書①) ◎片仮名を読み、書くとともに、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■片仮名の言葉を使って文を作る。	1 平仮名と形の似ている片仮名や、似た形の片仮名を区別して書く。 ・一字ずつ形を確認しながらノートに書く。 ・P130-131の「ひらがなと かたかな」を見て、他にも似ている形の字を探してノートに書く。	
		2 間違えやすい片仮名を練習する。 ・P87を見て、間違えやすい文字・長音・拗音の書き方を理解し、形に気をつけてノートに書く。	
		3 片仮名で書く言葉を集める。 ・見つけた片仮名の言葉を使って文を書く。	
		4 書いた文を発表し合う。	
	ことばを 見つけよう 6時間 (知・技①, 書⑤) ◎身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■言葉遊びを作る。	1 学習の見通しをもつ。 ・教材文を見て、「ことばクイズをつくって、みんなでときあおう」という学習課題を理解する。	
		2 P88-89の□にあてはまる言葉を考える。 ・「いる」「ある」をヒントにして言葉を見つける。 ・できあがった文を声に出して読む。	
		3 「ことばクイズ」を作る。 ・()の言葉の中に隠れている□の言葉を考える。 ・グループで相談し合う。 ・「いる」「ある」の使い分けに注意しながらクイズカードを作る。	
		4 クイズ大会をする。 ・グループごとにブースを作り、クイズを出し合う。	
		5 学習を振り返る。	
にて いる かん字 3時間 (知・技②, 書①) ◎第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■似ている漢字を使って文を書く。	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P118の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。		
	2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P119の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。		
	3 漢字を使って文を作る。		

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
書 く	いい こと いっぱい、一年生 10 時間 (書⑩) ◎自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。(思・判・表 B(1)イ) ○経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ・言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■経験したことを報告する文章を書く。	1 学習の見直しをもつ。 ・写真やアルバムを見ながら 1 年間の振り返り、心に残っていることを話し合う。 ・教材文を読み、学習の手順を知る。 ・「一年生の『おもいでアルバム』をつくろう」という学習課題を確認する。	○ ミライシード ①メモ ②並び替え ③作文
		2 1 年間の出来事を振り返る。 ・P121 を参考に、「がんばったこと」「できるようになったこと」などの観点から思い出す。 ・ 写真を見たり、家の人に聞いたりする。	
		3 アルバムに載せたい事柄を選ぶ。 ・一つ一つの事柄を思い出し、書きたい内容を集めてメモを作る。	
		4 メモをもとに、文章を書く。 ・P122 の作例を読み、書き方を考える。 ・順番を考えながらメモを並び替え、文章にする。 ・様子を表す絵を描いたり、写真を貼ったりする。	
		5 推敲する。 ・句読点や文字の間違いを見直す。 ・ 内容の分かりにくいところはないか、読み直す。	
		6 アルバムを作る。 ・時間順に並べるなど、構成を工夫する。	
		7 アルバムを読み合う。 ・友達の思い出についての感想や、書き方の良かったところを伝え合う。 ・家の人に読んでもらい、感想をもらう。	
		8 学習を振り返る。 ・「たいせつ」を確かめながら、1 年間の思い出から書くことを選び、取材し、分かりやすく書くことができたか振り返る。	
		9 1 年間の学習を振り返り、頑張ったことを思い出して P136 の表彰状に書く。 ・1 年生の初めに書いた字と比べ、自分の成長を確認する。	
		5 学習を振り返る。	
	1 似ているところに気をつけて漢字を書く。 ・P118 の漢字を見比べ、どこが似ているか出し合う。 ・似ているところと異なるところを確かめながら、ノートに書く。		
	2 書き順に気をつけて漢字を書く。 ・P119 の漢字を、書き順を確かめながらノートに書く。		
	3 漢字を使って文を作る。		

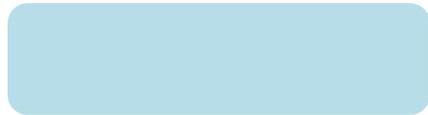
第2学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

めあてを決める



情報の表現
あらわす



情報の収集
情報をあつめる



情報の発信
伝える



情報の分析・整理
情報をまとめる



情報活用の評価・改善
ふりかえる



話す・聞く

	単元名	学習内容	ICTの 効果的活用
	じゅんばんに ならぼう つづけて みよう 1時間（話・聞①） ◎自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表 A(1)エ） ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■目的に沿って、声を掛け合う。	1 学習の見直しをもつ。 ・扉の詩を読み、目次や、P4「二年生のこくごのまなびを見わたそう」を見て、上巻の国語の学習を見渡す。	○スライド
	2 「じゅんばんにならぼう」の説明を聞く。		
	3 ゲームをしながら、どうしたら正確に並ぶことができるのか考える。 ・大事なことを落とさないように聞く。 ・自分の場所を見つけるために、声をかけ合う。		
	4 ひと言作文に取り組む。 ・心に残った出来事や発見したことをひと言で書き、伝え合う。（年間を通して、継続して取り組む。） →P153「ことばのたからばこ」		
	ともだちを さがそう 4時間（話・聞④） ◎アクセントによる語の意味の違いなどに気づくことができる。（知・技(1)イ） ◎自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。（思・判・表 A(1)エ） ■大事なことをメモしながら聞き取る。 ☆必要なことについて、身近な人と連絡し合う。（日常生活）	1 学習の見直しをもつ。 ・学校生活で先生等のお知らせを聞くときに気をつけていることやそのわけを話し合う。 ・「だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう」という学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。	○オクリンク
	2 P35 挿絵を見ながら、どんな人がいるのか友達と話し合う。	○デジタル教科書	
	3 P36 「まいごのお知らせ」を聞き、「ゆかさん」を探す。 ・どんなことに気をつけて聞くとよいかを整理する。 ・何をメモすればよいかについて確かめる。		
	4 絵の中から人物を選び、二人組で迷子のお知らせをする。 ・大事なところを落とさずに話したり、聞いたりすることができたかを相互に評価する。 ・単語や簡単な言葉でメモを取るようにする。		
	5 P37 「音のたかさ」を読み、アクセントの大切さについて理解する。		
	6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」をもとに、話を聞くときに気をつけたいことをまとめる。	○スプレッドシート	

単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
<p>あったらいいな、こんなもの 8時間 (話・聞⑧)</p> <p>◎丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて使うことができる。(知・技(1)キ)</p> <p>◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■自分の考えを説明したり、説明を聞いて質問や感想を述べたりする。</p> <p>☆伝えたいことについて、話す事柄や順序を考えて発表する。(日常生活)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「しつもんをしあつて、くわしく考える」という学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。</p>	○スライド
	<p>2「あったらいいな」と思うものを考えて、絵に描く。 ・道具の効果について、短い言葉で書いておく。</p>	○タブレットで絵にかき動かす。
	<p>3 質問のしかたを確かめて、友達と二人組で質問し合い、考えを明確にする。また、発表のしかたを確かめて準備をする。 ・考えた道具の形や色、大きさ、働き、あったらいいと思うわけについて、二人組で質問し合う。 ・質問と答えの内容を全体で交流し、詳しく聞くために気をつけることを確認する。 ・二人組の組み合わせを変えて、再度質問し合う。 ・質問に対する答えは、メモに残しておく。</p>	
	<p>4 グループで発表会を開く。 ・丁寧な言い方を知り、発表や質問で用いる。 ・メモを参考に発表し合い、感想を伝え合う。</p>	○テレビで映し出し説明
	<p>5 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で、発表したり、質問したりするときに必要なことを確認する。</p>	○スプレッドシート
<p>ことばでみちあんない 3時間 (話・聞③)</p> <p>◎相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■友達と道案内をし合う。</p>	<p>1 道案内の経験があれば、よかったことや難しかったことを出し合う。</p>	
	<p>2 みどりさんの道案内のしかたを考える。 ・分かりやすいかどうかを話し合う。 ・正しく伝えるためのポイントを整理する。</p>	
	<p>3 友達と道案内をし合う。 ・P112の挿絵をもとに待ち合わせ場所を決め、友達に道案内をする。 ・友達の道案内を、地図を見ずに聞き、大事だと思ったことをメモする。 ・案内されたとおりに行けるか確認し、分かりやすい順序で話したり、大事なことを落とさず聞いてきたかを相互に評価する。 ・学校の周辺にある公共施設など、実際の場所を目的地にして、案内する。</p>	○デジタル教科書 大事だと思ったことの共有

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>そうだんにのってください 8時間 (話・聞⑧)</p> <p>◎互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐことができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>○共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>■グループで相談する。</p> <p>☆友達の困り事を聞き、解決のために協力する題材。(学級活動、道徳)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・教師の相談事を提示し、学級全体で意見を交流する。 ・「友だちのそうだんごとを聞いて、考えを出し合おう」という学習課題を設定し、学習の進め方を確かめる。</p> <p>2 話題を決める。 ・友達に相談してみたいことを出し合う。 ・出し合った相談事の中で、話し合いができそうな話題を選ぶ。</p> <p>3 話し合いのしかたを決める。 ・相談者が司会をするなど、話し合いの進め方を確かめる。 ・考えを言うときや聞くときの留意点を整理する。 ・話のつなげ方(質問・確認・共感・感想など)を確認する。</p> <p>4 グループで話し合う。 ・司会の進行に沿って、話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・相談してよかったと思ったことを発表する。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で話し合いのしかたでよかったことを確かめる。</p>	<p>○スライド</p> <p>○ジャムボード 相談事を共有し視覚化</p> <p>○ スプレッドシート</p>
	<p>楽しかったよ、二年生 8時間 (話・聞⑧)</p> <p>◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>◎伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。(思・判・表 A(1)ウ)</p> <p>○姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>○相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。(思・判・表 A(1)イ)</p> <p>■経験したことを紹介する。</p> <p>☆1年間の生活を振り返り、楽しかったことやがんばったことを思い出し、経験を紹介する。(特別活動)</p> <p>☆自分の成長を振り返り、できるようになったことなどを実感させる題材。(生活科)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・1年間の学校生活を振り返り、学んだことや遊んだことを思い出す。 ・P102の発表を聞いて、「つたえたいことをきめて、はっぴょうしよう」という学習課題を設定し、学習の流れを確認する。</p> <p>2 1年間の学校生活を振り返り、話すことを決める。 ・学校でしたこと、あったことの中で、楽しかったことを思い出し、発表し合う。 ・話題として、自分がいちばん楽しいと思った出来事を決め、そのときのことを詳しく思い出して付箋に書き出す。</p> <p>3 組み立てを考えて原稿を書き、発表の練習をする。 ・時間的・重要度・印象の強さなどの点から話す順番を考え、付箋を貼り替える。 ・発表原稿を書く。 ・強調したいところに印をし、声を大きくしたり、ゆっくり話したり、聞き手を見て話したりするなどの工夫を書き込み、練習する。</p> <p>4 発表し合う。</p> <p>5 感想を伝え合う。 ・発表のしかたや原稿の構成などについて感想を言う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で、スピーチで気をつけたいことを確かめる。</p>	<p>○スライド</p> <p>○オクリンク 楽しかったことなど写真などで振り返る</p> <p>○スプレッドシート</p>

書

く

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
書	春が いっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。(思・判・表B(1)ア) ■春を感じる言葉を探し、経験を文章に表す。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材。(道徳、生活科)	1 挿絵を手がかりに、春に関わる言葉から想像したことを話したり、自分たちで探したりする。	○インターネットで春探し
		2 詩を音読する。	
		3 どんなものを見たときに、春の訪れを感じるか発表し合い、春についてのイメージを広げる。	
		4 春を感じたときの経験を文章に書く。 ・見つけたものやそのときの気持ちなどを、カードに書く。	○ジャムボード 文章の共有
		5 書いたものを読み合い、感想を交流する。	
	きょうの できごと 4時間 (書④) ◎経験したことから書くことを見つけ伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ○言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○語と語や文と文との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■身近な出来事を日記に書く。 ☆学校生活や家庭生活、身近な自然、季節の行事などに目を向けさせる題材。(特別活動、生活科)	1 学習の見通しをもつ。 ・日記を書いた経験やよさを、発表し合う。 ・どんなことを書けばいいか話し合う。	○スライド
		2 P32-33 の日記例から、日記の書き方を捉える。 ・上手に書かれているところや、様子がよく伝わる場所を見つけ、発表し合う。 ・「たいせつ」にある内容が書かれている箇所を見つける。 ・内容にまとまりがあることを確認する。	
		3 日常生活の中から日記の題材になりそうな出来事をノートに書き出す。	
		4 題材を選び、時間の順序に沿って日記を書く。 →P153「ことばのたからばこ」	
		5 友達と読み合って、よいところを伝え合う。(家の人に読んでもらって感想をもらうのもよい。)	
6 学習を振り返る。 ・「たいせつ」にある内容をしっかり書けたかを確認し、身につけた力をおさえる。(日記を継続し、学級に掲示していく計画を立てるのもよい。)		○スプレッドシート	

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
	<p>かんさつ名人に なるう 10 時間 (書⑩)</p> <p>◎経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>■観察したことを記録する。</p> <p>☆育てている動植物を観察し、分かったことなどを記録する。(生活科)</p> <p>☆身近な動植物の変化や成長の様子への関心を育む題材。(道徳, 生活科)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・生活科などで観察したことを振り返り、気づいたことを話し合う。 ・「ていねいにかんさつして、きろくしよう」という学習課題を設定し、学習の進め方を確認する。</p> <p>2 生活科の学習などを参考にして、観察するものを決め、メモを書く。 ・観察したことをメモに書く方法を確かめる。 ・様子や動きに気をつけて観察し、メモする。 →P153「ことばのたからばこ」 ・メモをもとに友達と話し合っ、観察記録文に書きたいことを明らかにし、決定する。</p> <p>3 メモをもとに観察記録文を書く。 ・P55 の作例を読み、観察記録文のイメージをもつとともに、書くときに大切なことを整理する。 ・P56「気がついたことや、見つけたことを書くときにつかうことば」を押さえる。 ・観察したことが読み手に伝わるように書けているか読み返す。</p> <p>4 観察記録文を友達と読み合い、文章のよいところを伝え合う。</p> <p>5 P55-56 の作例を比べ、続けて記録していくと、変化の様子がよく分かることを理解する。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」を参考に、観察記録で大切なことをまとめる。</p>	<p>○スライド</p> <p>○・ジャムボード ・メモの共有</p> <p>○スプレッドシート</p>
	<p>うれしい ことば 2 時間 (書②)</p> <p>◎言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>■うれしい言葉に関する文章を書く。</p> <p>☆自分や友達がふだん使っている言葉について意識させる題材。(日常生活)</p>	<p>1 これまでの生活を振り返り、いつ、誰にどんなことを言われたことがうれしかったかを発表する。</p> <p>2 P60 の観点をもとに、どんなとき、どんな言葉を使ってもらおうとうれしさを考える。</p> <p>3 P61 の作例を読み、感想を発表する。</p> <p>4 うれしい言葉の一つを選び、出来事とそのときの気持ちを書く。 ・その言葉を題名とし、3 文程度の文章にする。</p> <p>5 書いた文章を友達と読み合う。</p>	<p>○うれしい言葉の中でもみんなが言われてうれしい言葉の分析出す</p> <p>○ジャムボード ・うれしい言葉の共有</p> <p>○ジャムボード ・うれしい言葉の共有</p>

	<p style="text-align: center;">単元名 (題材)</p>		<p style="text-align: center;">ICT の 効果的活用</p>
	<p>かん字の ひろば① 2時間 (書②) ◎第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■絵を説明する文を書く。</p>	<p>1 教材中の漢字の読み方を確認し、海に囲まれた島の様子を想像する。</p> <p>2 絵の中の言葉 (漢字) を使い、島の様子を表す文を作る。 ・語と語のつながりに気をつける。 ・文の終わりには句点を打つ。</p> <p>3 書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解する。</p>	<p>○ジャムボード 想像したキーワードを意見共有</p>
	<p>かたかなの ひろば 2時間 (書②) ◎片仮名を書くとともに、文の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ○語と語や文と文との続き方に注意することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■絵を表す文を書く。 ☆身の回りにある片仮名を意識し、探したり使ったりする。(日常生活)</p>	<p>1 P77 挿絵を見て、動物たちの行動や様子を想像しながら、話をする。</p> <p>2 片仮名の表記の決まりを確かめる。 ・1年生の学習を振り返り、長音、促音、拗音、濁音、半濁音の決まりを確かめる。 →P140「ひらがなとかたかな」</p> <p>3 絵と、片仮名で書かれた言葉を見て、片仮名の言葉を使った文を書く。 ・友達と文を見せ合い、片仮名が正しく書けているか、文が整っているかを確かめる。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵を確認</p>
	<p>【じょうほう】メモをとる とき 3時間 (書③) ◎必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ■知らせたいことをメモに取る。 ☆メモの必要性を意識させる題材。(生活科、日常生活)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・これまでメモを書いた経験を思い出し、メモの役割やよさを話し合う。</p> <p>2 教科書の例をもとに、メモの書き方や工夫について確かめる。</p> <p>3 教室の中で知らせたいことを決め、メモに取る。 ・メモを取り、自分で読み返す。 ・メモを友達と読み合い、よさを伝え合う。</p> <p>4 メモを書くときに気をつけたいことを発表し合い、共有する。</p>	<p>○ジャムボード メモの役割やよさを意見共有</p>

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
	<p>こんなもの、見つけたよ コラム 丸, 点, かぎ 10時間 (書⑩)</p> <p>◎句読点の打ち方, かぎ (「 」) の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎文章に対する感想を伝え合うことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○文と文の続き方に注意しながら, 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■知らせたいことについて, 組み立てを考え, 文章にまとめる。</p> <p>☆身近なものについて, 紹介することを促す題材。(生活科)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記や, 生活科の町探検などを振り返り, 見つけたことや気づいたことを発表し合う。 ・「組み立てを考えて書き, 知らせよう」という学習課題を設定し, 学習の進め方を確認する。 ・P83の作例を読んで文章のイメージをもつ。 <p>2 P81のメモ例を参考に, 見つけたことや周りの人に尋ねて分かったことをメモに取る。</p> <p>→P78「メモをとるとき」 →P153「ことばのたからばこ」</p> <p>3 メモを見直して, 詳しくする。</p> <p>4 メモをもとに組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」「中」「終わり」の構成を理解し, メモをもとに表を組み立てて書く。 ・知らせたいことを「中」に, 具体的に書く。 ・友達と読み合い, 分かりやすい組み立てかを相談する。 <p>5 書く事柄を順序に沿って整理し, 構成を意識して文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点やかぎの使い方を理解する。 <p>→P85「丸, 点, かぎ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を読み返し, 間違いなどを直す <p>6 書いた文章を読み合い, 感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったことや分かりやすかったところを伝え合う。 <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で学習を振り返り, 「たいせつ」で, 文章を組み立てて書くときに大事なことを確かめる。 	<p>○スライド 写真等を使い学習の見直し</p>
	<p>夏が いっぱい 2時間 (書②)</p> <p>◎言葉には, 事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■夏を感じる言葉を探し, 経験を文章に表す。</p> <p>☆身近な自然に目を向け, 親しみをもつことを促す題材。(道徳, 生活科)</p>	<p>1 挿絵を手がかりに, 夏に関わる言葉から想像したことを話したり, 自分たちで探したりする。</p> <p>2 詩を音読する。</p> <p>3 どんなものを見たときに, 夏の訪れを感じるか発表し合い, 夏についてのイメージを広げる。</p> <p>4 夏を感じたときの経験を文章に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものやそのときの気持ちなどを, カードに書く。(絵を添えるのもよい。) <p>5 書いたものを読み合い, 感想を交流する。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p> <p>○ジャムボード 想像したキーワードを 意見共有</p> <p>○クラスルーム 感想を入力し共有</p>

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
	<p>かん字のひろば② 2時間 (書②) ◎第1学年に配されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵を説明する文を書く。</p>	<p>1 挿絵を見て、漢字の読み方を確認したり、男の子の生活の様子を想像したりする。</p> <p>2 絵の中の言葉(漢字)を組み合わせて、一週間の日記を一日一文で書く。</p> <p>3 書いた文を友達と交換し、読み合う。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p>
	<p>かん字のひろば③ 2時間 (書②) ◎第1学年に配されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵を説明する文を書く。</p>	<p>1 挿絵を見て、漢字の読み方を確認したり、どんな学校の様子か想像したりする。</p> <p>2 学校の様子について文を書く。 ・助詞の「は」「を」を適切に用いて書く。 ・絵の中の言葉を組み合わせて、学校の様子を一つの絵につき一文で書く。</p> <p>3 書いた文章を友達と交換し、読み合う。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p>
	<p>秋がいっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。(思・判・表B(1)ア) ■秋を感じる言葉を探し、経験を文章に表す。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材。(道徳、生活科)</p>	<p>1 挿絵を手がかりに、秋に関わる言葉から想像したことを話したり、自分たちで探したりする。</p> <p>2 詩を音読する。</p> <p>3 どんなものを見たときに、秋の訪れを感じるか発表し合い、秋についてのイメージを広げる。</p> <p>4 秋を感じたときの経験を文章に書く。 ・見つけたものやそのときの気持ちなどを、カードに書く。</p> <p>5 書いたものを読み合い、感想を交流する。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p> <p>○オクリンク 写真・絵・言葉などを シートにかき、共有</p> <p>○クラスルーム 感想を入力し共有</p>
	<p>かたかなで書くことば 2時間 (書②) ◎片仮名を書くとともに片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵と対応する文を書く。</p>	<p>1 片仮名を使って表記する言葉の種類を知り、片仮名で書く言葉を集める。</p> <p>2 P51の絵を見て、片仮名を使った文を書く。</p> <p>3 書いた文章を友達と交換し、読み合う。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>かん字の広場④ 2時間 (書②) ◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■絵と対応する文を書く。</p>	<p>1教材中の漢字の読み方を確認し、広場の様子を想像する。</p> <p>2絵の中の言葉(漢字)を使い、算数の問題を作る。 ・算数の問題文の書き方を確かめる。 ・語と語のつながりに気をつける。</p> <p>3書いた文を友達と読み合い、同じ漢字を使っても違う文ができることを理解する。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p>
	<p>お話のさくしゃになろう 10時間 (書⑩) ◎自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。(思・判・表B(1)イ) ○身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ○文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ■想像して物語を書く。 ☆想像したことなどから、表したいことを見つけて表す。(図画工作)</p>	<p>1学習の見通しをもつ。 ・好きな物語について、どんな出来事が起きるかを紹介し合う。 ・「まとまりに分けて、お話を書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>2絵を見てお話を考える。 ・登場人物や出来事を考える。 ・出来事の例を提示したり、「初め」「中」「終わり」の場面の絵を描いたりする。</p> <p>3まとまりに分けて、お話を説明する。 ・「初め」「中」「終わり」の内容を考える。 ・絵を見せながら、友達に考えたお話を話す。</p> <p>4お話を書く。 ・P74-75や「お話のれい」を参考にして、適切な言葉を考えながら書く。 ・書き終わったら、間違いがないか確かめる。</p> <p>5書いたお話を読み合う。 ・おもしろいと思ったことを伝え合う。</p> <p>6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で身につけた力を確かめる。</p>	<p>○スライド 写真等を使い学習の見通し</p> <p>○オクリンク 挿絵を並べる</p> <p>○スプレッドシート</p>
	<p>冬がいっぱい 2時間 (書②) ◎言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことから書くことを見つけることができる。(思・判・表B(1)ア) ■冬を感じる言葉を探し、経験を文章に表す。 ☆身近な自然に目を向け、親しみをもつことを促す題材。(道徳、生活科)</p>	<p>1挿絵を手がかりに、冬に関わる言葉から想像したことを話したり、自分たちで探したりする。</p> <p>2唱歌「ゆき」を音読する。</p> <p>3どんなものを見たときに、冬の訪れを感じるか発表し合い、冬についてのイメージを広げる。</p> <p>4冬を感じたときの経験を文章に書く。 ・見つけたものやそのときの気持ちなどを、カードに書く。</p> <p>5書いたものを読み合い、感想を交流する。</p>	<p>○デジタル教科書</p> <p>○ジャムボード 想像したキーワードを 意見共有</p> <p>○クラスルーム 感想を入力し共有</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>かん字の広場⑤ 2時間 (書②)</p> <p>◎第1学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・語と語との続き方に注意することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■絵を説明する文を書く。</p>	<p>1 挿絵を見て、公園の様子や人物の行動を想像したり、漢字の読み方を確認したりする。</p> <p>2 公園の様子を表す文を書く。 ・主語と述語のつながりに気をつける。</p> <p>3 書いた文章を友達と交換し、読み合う。</p>	<p>○デジタル教科書 挿絵確認</p>
	<p>ようすをあらわすことば 4時間 (知・技①, 書③)</p> <p>◎身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○語と語や文と文の続き方について注意しながら、つながりのある文章を書くことができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>☆体験したことや想像したことを豊かに表現する。(生活科, 日常生活)</p>	<p>1 雨の様子に合うと思う言葉を発表する。 ・さまざまな表現のしかたがあることを確かめる。</p> <p>2 様子を表す言葉には、種類があることを知る。 ・形容詞 (形容動詞), オノマトペ, 比喩表現の特徴を押さえる。 ・前時に出た言葉を分けてもよい。 ・例文を読み、文の印象の違いについて話し合う。</p> <p>3 オノマトペや形容詞, 比喩表現を使うことで、表現が広がることを確かめる。</p> <p>4 3枚の挿絵について、様子を表す言い方を使って文を書く。</p> <p>5 書いた文を友達と読み合い、表現のしかたについて、よいところを伝え合う。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・様子を表す言葉をどのようなときに使っていききたいかを発表する。</p>	<p>○ジャムボード 想像したキーワードを 意見共有</p> <p>○デジタル教科書 挿絵確認</p> <p>○スプレッドシート</p>
	<p>見たこと, かんじたこと 6時間 (書⑥)</p> <p>◎経験したことや想像したことなどから書くことを見つけることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■経験したことを詩に書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・P98の詩を読み、身近な出来事や物事を言葉で表現していることに気づく。 ・「見たこと, かんじたことを詩に書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>2 詩の題材を見つける。 ・生活の中で心が動いたことを振り返る。 ・見たり聞いたりしたことや五感で感じたことなどを思い出してノートに書く。</p> <p>3 これまで学習した表現の工夫を使って詩を書く。 ・教科書の三つの詩を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返ったりして、読む人に伝わるよう表現を工夫する。</p> <p>4 書いた詩を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>○スライド 写真等を使い学習 の見通し</p> <p>○クラスルーム 感想を入力し共有</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>すてきなところをつたえよう 12 時間 (書②)</p> <p>◎文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすることができる。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>○丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけながら使うことができる。(知・技(1)キ)</p> <p>○経験したことから書くことを見つけ、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>○自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>■手紙を書く。</p> <p>☆よりよい人間関係を築くのに資する題材。(生活科, 学級活動, 日常生活)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・友達との関わりを振り返り、「すてきな」と感じた友達のよいところを思い出す。 ・P130 の手紙例を読んで感想を出し合い、「思いをつたえる手紙を書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>2 1 年を振り返って、伝えることを決める。 ・友達との関わりや「すてきな」と思ったことをメモし、手紙に書くことを決める。</p> <p>3 手紙を書く。 ・P130 の手紙例を読み、まねしたい書き方を探す。 ・下書きを書く。</p> <p>4 書いた手紙を読み返し、伝えたいことが伝わるように直したり、間違いを正したりして清書する。 ・書き方を変えたり、別の言葉を使って表現したりして書き直し、いちばんよいと思う文章で清書する。 ・間違いを正すときは、友達と下書きを交換して読み合い、気になるところにサイドラインを引くなどして間違いを見つけられるようにする。 ・書き終えた児童は、同じ相手に複数書いてもよいし、違う相手に書いてもよい。</p> <p>5 書いた手紙を交換し合い、返事を書いて相手に渡す。 ・返事には、読んで思ったことやよいところを書く。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で学習を振り返り、「たいせつ」で相手に分かりやすく書くときの観点を確かめる。</p>	<p>○ジャムボード 想像したキーワードを 意見共有</p> <p>○デジタル教科書 サイドラインを引く</p> <p>○スプレッドシート</p>

第3学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

めあてを決める



情報の表現
あらわす



情報の収集
情報をつめる



情報の発信
伝える



情報の分析・整理
情報をまとめる



情報活用の評価・改善
ふりかえる



話す・聞く

	単元名	学習内容	ICT の効果的活用
話す・聞く	<p>よく聞いて、じこしょうかい 1時間（話・聞㉑） ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。（思・判・表 A(1)エ） ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり（特別活動）</p>	<p>1 扉の詩を読み、目次や P4「三年生の国語の学びを見わたそう」、P9「分ける・くらべる」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。</p>	
		<p>2 自分の「すきなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返しながら、順番に紹介し合う。</p>	
		<p>3 P5「二年生の学びをたしかめよう」を読んで、自分たちの話し方・聞き方を振り返る。</p>	
	<p>もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために 6時間（話・聞㉒） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表 A(1)） ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間のとり方などに注意して話すことができる。（知・技（1）イ） ○日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表 A（1）ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る。（特別活動、道徳）</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・ P40 を読み、友達からさらに話を聞きたくなくなった経験を発表し合う。 ・ 「友だちの話を聞いて、さらに知りたいことを考えてしつもんしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 →P4「三年生の国語の学びを見わたそう」</p>	
		<p>2 友達と話を聞き合うために、自分が話し手として知らせたいことを決めて、ノートに書く。</p>	
		<p>3 P41 の表を参考に、質問の種類や話の聞き方を整理する</p>	
		<p>4 友達の話を聞いて、質問をする。 ・ 3、4人のグループになり、一人ずつ話をする。 ・ 聞き手は、もっと知りたいことを考えながら聞き、話が終わったら、質問したいことをカードに書く。その中から、特に知りたいことを質問する。 ・ 知りたいことがうまく引き出すことができなかつた例を取り上げ、P44「きちんとつたえるために」で大事にすることを考える。</p>	
		<p>5 友達の話や質問とその答えを聞いて、心に残ったことを伝え合う。</p>	
		<p>6 学習を振り返る。 ・ 「ふりかえろう」で、話を聞いて質問するとき大切に思ったことを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	

<p>山小屋で三日間すごすなら</p> <p>3時間（話・聞③）</p> <p>◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ）</p> <p>◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ）</p> <p>○目的を意識して、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア）</p> <p>■グループで話し合う。</p> <p>☆係活動や委員会活動などにおける話し合い（特別活動）</p>	<p>1 話題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P116を基に、子どもたちだけで三日間過ごすという設定を捉え、「山小屋で三日間すごすなら何をもっていくか」という話題を確かめる。 	
	<p>2 グループでしたいこと、持っていきたい物をたくさん出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げることが目的の話し合いであることを確認する。 ・考えを付箋に書き出し、共通点で分類して整理する。 →P9「分ける・くらべる」 	○ ジャムボード
	<p>3 グループでしたいことを決めて、持ち物を五つ選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えをまとめることが目的の話し合いであることを確認する。 	
	<p>4 各グループの話し合いの結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの話し合いにどのような違いがあったかについても、感じたことを言い合う。 	○
	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」のときに大切にすることを確認する。 	
<p>はんで意見をまとめよう</p> <p>8時間（話・聞⑧）</p> <p>◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ）</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ）</p> <p>○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア）</p> <p>■グループで話し合い、考えをまとめる。</p> <p>☆インタビューによって調査する（社会・総合的な学習の時間）</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生が本を好きになってくれるような、読み聞かせをすること、そのために、グループで絵本を1冊選ぶことという、目的と決めることを確認する。 ・自分の考えを付箋などに書いておく。 ・これまでの話し合いの活動で学習したことを思い出し、「1年生に読み聞かせをするために、グループで絵本を1冊決めよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	○ ジャムボード
	<p>2 役割を決め、進め方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会、記録、計時などの役割があることを確認する。 ・話し合いの進め方をノートに書く。 	
	<p>3 話し合いのしかたを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声CDや指導者用デジタル教科書で、話し合いの例を聞き、話し合いのしかたを知る。 ・P36-38を見ながら、司会と参加者が気をつけることを整理する。 	○
	<p>4 本を一冊に決めるために、グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を意識して、意見と理由を明確にしながら話し合いを進める。 ・考えを書いた付箋を活用しながら、話し合いの様子を整理する。 →P9「分ける・くらべる」 	○ ジャムボード
	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」を基に、話し合いのしかたでよかったところなどを伝え合う。 ・P39「たいせつ」を読み、話し合いをするときに大事なことを確認する。 ・次に話し合いをするときに気をつけたいことをノートにまとめる。 	

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>わたしたちの学校じまん 8時間 (話・聞⑧)</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。(思・判・表 A(1)イ)</p> <p>◎話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表 A(1)ウ)</p> <p>○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら話すことができる。(知・技(1)キ)</p> <p>○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>■グループで学校のよいところを紹介する発表を行う。 ☆インタビューによって調査する(社会・総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校の自慢したいところやその理由を出し合う。 ・これまでの話し合いの活動で学習したことを思い出し、「つたえたいことを、理由をあげて話し、わたしたちの学校じまんをしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>→P4「三年生の国語の学びを見わたそう」</p> <p>2 グループで話し合い、自慢したいことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表する場、相手、目的を確かめる。 <p>3 理由を考えて、資料を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自慢したい理由を出し合って、相手に伝わりやすいかどうかを話し合い、発表するものを決める。 ・自慢したい理由に合わせて、発表で見せる資料を集める。 <p>4 組み立てを考えて、発表原稿を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P119の「発表のれい」を参考に、「初め」「中」「終わり」の組み立てを考える。 ・役割分担をして、発表原稿を作る。 ・自分の役割を意識し、聞き手の立場になって、伝え方を工夫する。 <p>5 グループで発表のしかたを確認し、練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声CDや指導者用デジタル教科書で話し方の例を聞いたり、二次元コードの動画を見たりして、話し方の工夫を確認する。 ・話し方の工夫を意識しながら、練習する。 ・発表の内容や発表のしかたについて助言し合い、気づいたことを発表原稿に書き入れる。 <p>6 発表会をする。</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや発表の練習で助言し合ったことを思い出し、よかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえるとともに、次に話し合いをするときに気をつけたいことをノートにまとめる。 	<p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○ オクリンク</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
書 く	【じょうほう】引用するとき 3時間 (知・技①, 書②) ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる (社会など)	1 「引用」を知る。 →P160「学習に用いる言葉」 ・P90を参考に、本などから調べたことを報告する際には、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。	
		2 「引用」の決まりを理解する。 ・自分の文章の中で引用する際の、決まりを確かめる。 ・正しく引用できるよう、本などで調べる際のメモの取り方を確かめる。 ・人から聞いたことを引用する書き方を理解する。	
		3 P50「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書く。	
		4 書いた文章を友達と読み合い、正しく引用できているかを確かめる。	

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>気持ちをこめて「来てください」 6時間 (書⑥)</p> <p>◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ)</p> <p>◎相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>○書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつかって文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>■行事を案内する手紙を書く。</p> <p>☆時と場に応じた適切な手紙を書く (社会・総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで手紙をもらった経験を思い出し、手紙のよさを発表し合う。 ・運動会や学習発表会など見に来てほしい行事、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「大事なことを考えて、あんないの手紙を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。→P4 「三年生の国語の学びを見わたそう」 <p>2 行事や手紙を送る相手を決め、伝えることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時、場所、行事の説明、気持ちなど来てもらうために何を書くとよいか考える。 <p>3 伝えることをメモに整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と交換して、内容の正誤や加除などを確かめる。 <p>4 P62「森川さんの手紙」を読んで、手紙の組み立てを確かめる。</p> <p>5 組み立てに沿って手紙を書いて、読み返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が気持ちよく読めるように、声に出して読み、文末表現を確認したり、文字の間違いを正したりする。 <p>6 手紙を届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。 <p style="text-align: right;">→P136「手紙の書き方」</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で学んだことを振り返り、これまでに書いた手紙との違いを考えるなどする。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>仕事のくふう，見つけたよ 【コラム】符号など 12時間（書②） ◎段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ◎書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の 関係に注意したりして，文章の構成を考えることができる。（思・判・表 B(1) イ） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え 合い，自分の文章のよいところを見つけることができる。（思・判・表 B(1)オ） ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこ とができる。（知・技(1)ウ） ○比較や分類のしかた，必要な語句などの書き留め方，引用のしかたを理解し使 うことができる。（知・技(2)イ） ○相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び， 集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすることがで きる。（思・判・表 B(1)ア） ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて，調査を行い，報告する文章にまとめる。（社会）</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・「組み立てを考えて，ほうこくする文章を書こう」という学習課題を設定し，学習計画を立てる。 →P4「三年生の国語の学びを見わたそう」</p> <p>2 調べたい仕事を決める。 ・身の回りにある仕事を書き出すなどしてたくさんあげ，興味があるものを選ぶ。</p> <p>3 仕事について調べる。 ・本などで確かめ，知りたいことを明確にする。 ・地域の店舗や施設などを訪ね，インタビューをしたり，見学をしたりしてメモをする。 ・見つけた工夫の中から，友達に伝えたいことを選ぶ。</p> <p>4 報告文の組み立てを確かめる。 ・P94を参考に，伝えたいことを内容ごとにまとまりに分けて整理する。</p> <p>5 報告文を書く。 ・P94を見て，気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点の使い方などにも注意する。 →P97「符号など」</p> <p>6 報告文を友達と読み合っ，感想を伝え合う。 ・報告文の構成や調べた内容などについて伝える。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で報告する文章を書くときに大切なことを振り返るとともに，「たいせつ」「いかそう」 で身につけた力を押さえる。</p>	<p></p> <p></p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p></p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>すがたをかえる大豆 【じょうほう】科学読み物での調べ方 食べ物のひみつを教えます 15 時間 (知・技①, 書⑧, 読⑥) ◎比較や分類のしかた, 辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ◎段落相互の関係に着目しながら, 考えとそれを支える理由や事例との関係などについて, 叙述を基に捉えることができる。(思・判・表 C(1)ア) ○幅広く読書に親しみ, 読書が, 必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■筆者の説明の工夫を見つけ, 食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材 (総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・ P41 扉を確認し, 大豆について知っていることなどを出し合う。 ・ 通読して, 「れいの書かれ方に気をつけて読み, それをいかして書こう」という学習課題を設定し, 学習計画を立てる。 →P4 「三年生の国語の学びを見わたそう」</p> <p>2 文章全体の組み立てに着目して, 教材文を読む。 ・ 「初め」「中」「終わり」に説明されていることを整理する。 ・ 筆者が「中」で挙げている具体例を, 表などにしてノートに整理する。 ・ 「いる」「にる」のように, 大豆に手を加えるときの言葉を探し, ノートに書き出し, 言葉の意味を国語辞典で確かめる。</p> <p>3 「初め」の部分に問いを入れるとしたら, どんな「問い」を入れるかを考えて, ノートに書く。</p> <p>4 「中」について, 段落の順序を表す言葉や中心になる文を確かめながら読む。 ・ 段落の順序を表す言葉やそれぞれの段落の中心となる大事な文に線を引く。 ・ どのような順序で事例が挙げられているのかが分かるところを見つける。</p> <p>5 筆者の説明の工夫をまとめる。 ・ 文章全体の組み立てと各段落の組み立て, 言葉の使い方, 写真の使い方などに着目して, 筆者の説明の工夫をまとめ, 友達と意見を交流する。</p> <p>6 食べ物について書かれた本を読み, 感想をまとめて, 友達に伝える。 ・ 学校図書館などで本を探して読み, 初めて知ったことや説明の工夫のしかたなどの観点から感想をもつ。</p> <p>7 学習を振り返る。 ・ 「ふりかえろう」で報告する文章を書くときに大切なことを振り返るとともに, 「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p> <p>8 学習の見直しをもつ。 ・ 「すがたをかえる大豆」を学習して, 食べ物について知りたくなったことを発表する。 ・ 学習計画を見直し, 今後の進め方を検討する。</p>	<p></p> <p>○ デジタル教科書</p> <p></p> <p>○ デジタル教科書</p> <p>○ ジャムボード</p> <p></p> <p></p>

		<p>9 食材を決め、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「米」「麦」「とうもろこし」「牛乳」「魚」「いも」の中から選ぶ。 ・おいしく食べる工夫や食品の例について、学校図書館を利用して調べる。 	
		<p>10 調べた内容を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P52を参考にして、調べたことを図や表にして整理する。 ・さらに知りたいことを別の本で調べたり、家の人などに聞いたりする。 	○
		<p>11 文章の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「初め」「中」「終わり」に分けて文章の組み立てを考える。 ・「すがたをかえる大豆」を参考にして、分かりやすい例のあげ方を工夫する。 ・友達と考えた組み立てを読み合い、気づいたところを助言し合う。 	○ オクリンク
		<p>12 説明する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み立てに沿って、下書きをする。 ・「すがたをかえる大豆」の書き方の工夫を参考にして、分かりやすい説明のしかたを考える。 ・読み返して、分かりにくいところがないか確かめる。 ・下書きをもとに、ていねいに清書する。 	
		<p>13 友達と文章を読み合い、感想や文章のよいところを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き方と内容の両面から感想やよいところを見つけ、伝え合う。 	○ オクリンク
		<p>14 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例を挙げて書く書き方の工夫に気づき、その工夫を自分の文章にいかすことができたか確かめる。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>ことわざ・故事成語 4時間 (知・技②, 書②)</p> <p>◎長い間使われてきたことわざや故事成語の意味を知り, 使うことができる。(知・技 (3)イ)</p> <p>・目的を意識して, 伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>■調べたことをまとめて書く。</p>	<p>1 知っていることわざや故事成語を出し合い, 関心をもつ。</p> <p>2 ことわざや故事成語について知る。 ・P57を読み, ことわざについて知り, 提示されていることわざの意味を調べ, 記録する。 ・P58を読み, 故事成語について知り, 提示されている故事成語の意味や由来を調べ, 記録する。</p> <p>3 好きなことわざや故事成語を選び, 意味と文例をカードにまとめる。</p> <p>4 グループごとにカードを集め, ことわざ辞典を作る。 ・どのような順で綴るかを話し合う。 ・出来上がったことわざ辞典を読み合い, 感想を伝え合う。</p>	<p></p> <p>○</p> <p></p> <p>○</p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICT の 効果的活用
	<p>たから島のぼうけん 10 時間 (書⑩)</p> <p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の 関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対 する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを 見つけることができる。(思・判・表 B(1)オ)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙 を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっ ているかを確認めたりして、文や文章を整えることができ る。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>■物語を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 好きな冒険物語や登場人物を出し合う。 「組み立てにそって、わくわくするぼうけん物語を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 P82 の地図から想像を広げ、物語の構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時、場所、登場人物、出来事などから考えを広げる。 P82「物語のないようを考えるときには」を確認し、想像を広げたり、友達と意見を交流したりする。 <p>3 組み立てと場面の様子を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「始まり」「出来事(事件)が起こる」「出来事(事件)が解決する」「むすび」の組み立てで、物語を考える。 P83の組み立ての例を参考に、まとまりごとに内容を考えていく。 <p>4 考えた組み立てに沿って物語を書き、読み返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> P84の作品例を参照して、考えた組み立てから内容を膨らませて、物語を仕上げる。 場面の様子や登場人物の行動、気持ちが伝わるよう、言葉を選ぶ。 →P157「言葉のたから箱」 できた作品を読み返し、文字、主語と述語、文のつながりなどの間違いがないかを確認めたり、よりよい表現に書き直したりする。 <p>5 できあがった物語を読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 物語の内容や組み立てについて感想を述べ合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえろう」を基に、組み立てを考えて、物語を書くことができたかを振り返る。 「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえるとともに、これから物語を書くときに気をつけたいことをノートに書く。 	

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>詩のくふうを楽しもう 4時間 (読②, 書②)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い, 自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■詩を紹介する文章を書いたり, 詩を創作したりする。</p>	<p>1 6編の詩を音読する。 ・比喩や繰り返しの表現に注意する。 ・それぞれの詩の特徴をつかみ, 言葉の使い方や書き表し方でおもしろいと感じたことを発表する。</p> <p>2 活動を選んで, 詩を楽しむ。 ・これまでに読んだことのある詩の中から, おもしろい工夫だと思うものを見つけ, 紹介する文章を書く。 ・あるいは, 6編の詩で見つけた工夫を使って, 詩を創作する。</p> <p>3 書いた文章や作った詩を友達と読み合い, 交流する。</p> <p>4 学習を振り返る。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表し合う。 ・「この本, 読もう」で詩集の読み広げに意欲をもつ。</p>	<p>○ デジタル 教科書</p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>つたわる言葉で表そう 5時間 (知・技②, 書③)</p> <p>◎言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 話や文章の中で使い, 語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして, 書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>■言葉を選びながら, 相手に伝わる文章を書く。</p> <p>☆体験したことを報告する文章にまとめる (社会・総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・P105を読み, 自分の伝えたいことがうまく伝わらなかった経験を想起する。 ・学習目標を設定し, 学習計画を立てる。</p> <p>2 P106の田中さんの運動会の感想を読んで, くわしく思い出すことが大事であることを確認する。</p> <p>3 P107を読んで, 自分の気持ちや表したい様子に合う言葉を選ぶことが大事であることを確認する。 →P157「言葉のたから箱」</p> <p>4 冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書き, 友達と読み合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p>	<p>○</p>

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>これがわたしのお気に入り 12時間 (書②)</p> <p>◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>■1年間の学習を振り返り、自分が作った作品を紹介する文章を書く。 ☆他教科の作品を振り返る。(他教科との学びとの関連)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の学習を振り返り、作った作品を書き出す。 ・「お気に入りの作品を紹介する文章を書き、感想をつたえ合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p style="text-align: right;">→P4「三年生の国語の学びを見わたそう」</p> <p>2 作品を選び、くわしく書き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングなどを利用して、紹介したい作品とそれにまつわる出来事を思い出して、書き出す。 ・書き出したものを友達と見せ合い、もっと知りたいことなどについて言い合う。 <p>3 組み立てメモを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P112「しょうかいする文章のれい」を読み、文章の組み立てを確認する。 ・P111「高山さんの組み立てメモ」を参考に、組み立てメモを書く。 <p>4 紹介する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P112「しょうかいする文章のれい」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 ・作品の説明と紹介したい理由が分かるように、段落の分け方や説明のしかたを考えて書く。 <p>5 書いた文章を読み合い、書き方や内容の面から感想を伝え合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」を基に、自分や友達の文章のよいところを見つけ、それを取り入れることのよさについて理解する。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>○ ジャムボード</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

第4学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

課題の設定



情報の表現
あらわす



情報の収集
情報をあつめる



情報の発信
伝える



情報の分析・整理
情報をまとめる



情報活用の評価・改善
ふりかえる



話す・聞く

	単元名	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>こんなところが同じだね</p> <p>○様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつことができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>■友達の話の聞いたり，自分の思いを伝えたりする。</p> <p>☆楽しい学級生活作り。(特別活動)</p>	<p>1 扉の詩を読み，目次やP4「四年生の国語の学びを見わたそう」，P9「分ける・くらべる」を見て，上巻の国語学習を見通すとともに，国語学習で用いる力や情報の整理のしかたを確かめる。</p> <p>2 教材文を読み，活動の流れを確かめて，二人一組になって2分間で共通点を探す。</p> <p>3 二つの組で4人グループを作り，5分間でできるだけ多くの共通点を探す。</p> <p>4 みんなに教えたい共通点を発表し合う。</p> <p>5 友達との共通点を知ってどのように感じたかを伝え合う。</p>	<p>○</p>
	<p>聞き取りメモのくふう</p> <p>【コラム】話し方や聞き方から伝わること</p> <p>◎必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○相手を見て話したり聞いたりすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>○比較や分類のしかた，必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>■工夫してメモを取ったり，それを基に発表したりする。</p> <p>☆話を聞きながら，自分に必要な情報をメモに取る。(社会，総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを取った経験を思い出し，うまくいったときや失敗したときのことを振り返る。 ・聞くことに関するこれまでの学習をP5で振り返り，「大事なことを落とさずに聞き，メモを取るときの工夫を見つけよう」という学習課題を設定して，学習計画を立てる。 <p>2 音声CD（または教師の音読）で，掲示係の説明を聞き，メモを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「後から自分で説明する」ことを意識してメモを取るようになる。 <p>3 メモの取り方の工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P42のメモの例を見て，それぞれの工夫を見つけ，自分のメモと比べる。 ・グループで互いのメモの取り方を比べる。 ・記号や線を用いたり，箇条書きにしたりするなど，メモの取り方の工夫を考える。 <p>4 クラスの友達がよく知らないことについて詳しい人に話をきき，メモを取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P44下段を見て，メモを取りながら話を聞くときに大切なことを考える。 ・何を誰にきくかを決め，話をきき，聞き取りメモをもとに話の内容をクラスの友達に伝える。 <p>5 目的に合ったメモの取り方について考える。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>○ジャムボードにメモの工夫を共有する</p>

単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
<p>あなたなら、どう言う</p> <p>◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○考えとそれを支える理由や事例との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表 A(1)エ)</p> <p>■グループで役割を決めて、それぞれの立場でやり取りをする。</p>	<p>1 P118 の状況を捉え、グループで役割を決めて、それぞれの立場でやり取りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いが納得する方法を考える。 ・役割を交代してやり取りを積み重ねることで、それぞれの立場での思いを理解する。 	
	<p>2 それぞれの立場の人が、やり取りのときに、なぜそのような言い方をしたのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい対話の方法を考える。 	
	<p>3 自分とは違う立場になって考えることのよさについて考える。</p>	
<p>クラスみんなで決めるには</p> <p>◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表 A(1)オ)</p> <p>○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>■よりよい話し合いのしかたについて考え、役割を意識しながらクラス全体で話し合って考えをまとめる。</p> <p>☆役割を意識して話し合う姿勢を育てる題材。(日常生活、特別活動)</p> <p>☆人の自分と違う考えと接するときに、約束に則って適切に判断する態度について考える題材。(道徳)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動で困った経験を振り返る。 ・話し合いや対話に関するこれまでの学習を振り返り、「役わりをいしきしながら、よりよく話し合おう」という学習課題を設定して、学習計画を立てる。 	
	<p>2 役割を決め、議題と目的を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いにおける役割を知り、分担する。 ・日常生活の中から必要感の高い議題を選ぶ。 	
	<p>3 話し合いの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P38-40 の話し合いの例を、音声CDや指導者用デジタル教科書で聞いたり、文章で読んだりして、気をつけるとよいことを考え、交流する。 ・司会グループや参加者がそれぞれ気をつけるとよいことを整理し、「よりよい話し合いのしかた」としてまとめる。 ・司会グループは進行計画を立て、提案者は議題に対する提案をまとめ、参加者は議題に対する自分の考えをまとめておく。 	<p>○ ジャムボードを活用する。</p>
	<p>4 クラス全体で話し合い、話し合いのしかたについて気づいたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よりよい話し合いのしかた」を意識しながら、進行に沿って話し合う。 ・P9「分ける・くらべる」も参考に、意見を比べたり整理したりしながら話し合う。 ・話し合いを振り返り、よかったところや次に気をつけたいところを伝え合う。 ・振り返ったことをもとに、別の議題で役割を変えて話し合う。 	
	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	

	単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>調べて話そう, 生活調査隊</p> <p>◎相手を見て話したり聞いたりするとともに, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などに注意して話すことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎目的を意識して, 日常生活の中から話題を決め, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア)</p> <p>◎話の中心や話す場面を意識して, 言葉の抑揚や強弱, 間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表 A(1)ウ)</p> <p>○考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>○相手に伝わるように, 理由や事例などを挙げながら, 話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。(思・判・表 A(1)イ)</p> <p>■調査の報告をしたり, それらを聞いて意見を述べたりする。</p> <p>☆発表の際の, 話し手・聞き手の姿勢を育てる題材。(日常生活, 特別活動)</p> <p>☆みんなで協力し合って楽しい学級を作る心情を育てる題材。(道徳)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P112を読み, 身近な生活の中にある疑問を出し合う。 ・話すことに関するこれまでの学習を振り返り, 「生活に関するぎもんをグループで調べて, 分かったことを発表しよう」という学習課題を設定して, 学習計画を立てる。 <p>2 調べたいことを決め, 調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分やみんなの生活について, 感じていることをグループで出し合い, その中から調べたいことを一つ選ぶ。 ・アンケート調査をした経験をいかし, 調べたいことについてアンケートを作って調査する。 <p>→上 P96 「アンケート調査のしかた」</p> <p>3 アンケート結果から資料を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を整理し, 分かったことを明確にして, グラフや表にまとめる。 <p>4 調べて分かったことを発表する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P115の発表の例を読んだり, 音声CDや指導者用デジタル教科書で聞いたりして, 発表のしかたで工夫されているところを見つける。 ・見つけた工夫を意識し, 自分の担当部分をどのように発表するか考える。 <p>5 発表し, 感じたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し方の工夫を意識して発表する。 ・自分の生活と比べながら聞き, 質問をしたり発表のよかったところを伝えたりする。 ・友達の感想から, 自分の考えが正しく伝わっているか考える。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに, 「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p></p> <p></p> <p>○ オクリンク やグーグル スライドに まとめる。</p> <p>○ デジタル教 科書を活用 する。</p> <p>○</p>

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
書	<p>春の楽しみ</p> <p>◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■行事を説明する文章を書く。</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材。(道徳)</p>	<p>1 挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、春の行事や様子を表す言葉を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事やそれに関する言葉がないか、話し合う。 	○ インターネットで調べる。
	<p>2 自分の住む地域の春の行事と、その簡単な説明を書き、友達と読み合う。</p>		
く	<p>漢字の広場①</p> <p>◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>1 教科書の絵を見て、町や周りの様子を想像し、提示された言葉を使いながら、町のことを紹介する文を書く。</p>	○
	<p>2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。</p>		
	<p>3 書いたものを友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価し合う。</p>		

書

く

<p>単元名 (題材)</p>		<p>ICT の 効果的活用</p>
<p>お礼の気持ちを伝えよう</p> <p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係を注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ)</p> <p>○相手や目的を意識して、書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>■手紙を書く。 ☆時と場に応じた適切な手紙を書く。(社会、総合的な学習の時間)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・書くことに関するこれまでの学習を P6 で振り返り、「気持ちが伝わる手紙を書こう」という学習課題を設定して、学習計画を立てる。</p>	
	<p>2 誰に何のお礼を伝えるのかを決める。</p>	
	<p>3 手紙の型に沿って、内容を考える。 ・「初めの挨拶」「本文」「結びの挨拶」「後付け」という手紙の型を確認める。 ・何に対してお礼を言いたいのかを明確にするため、詳しく書き出す。</p>	<p>○ デジタル教科書を活用する。</p>
	<p>4 手紙を書いて、読み返す。 ・文末の表現や文字の間違い、言葉遣いに誤りがないかを確認する。</p>	
	<p>5 手紙を送る。 ・P65 を参考にして、封筒に宛名と差出人を書く。</p>	
	<p>6 学習を振り返る。 ・手紙で気持ちを伝えることのよさを話し合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	
<p>漢字の広場②</p> <p>◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>1 教科書の絵を見て、それぞれの場面を想像し、提示された言葉を使いながら、夏の楽しみを文に書く。</p>	<p>○</p>
	<p>2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。</p>	
	<p>3 書いたものを友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価し合う。</p>	

書

く

<p>単元名 (題材)</p>		<p>ICT の 効果的活用</p>
<p>新聞を作ろう</p> <p>【コラム】アンケート調査のしかた</p> <p>◎相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ)</p> <p>○比較や分類のしかた、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ)</p> <p>■学級新聞を作る。</p> <p>☆調べたことなどを効果的に新聞にまとめる。(社会、総合的な学習)</p> <p>☆他教科の学習内容や、他教科の学習で調べたことなどを新聞に書く題材にすることで、教科間の連携を図ることができる。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P89, 94 の新聞や、実際の新聞を見て、読む人のことを考えた新聞の工夫を見つける。 ・ これまでの書くことの学習や要約に関する学習を振り返り、「事実を分かりやすく報告する学級新聞を作ろう」という学習課題を設定して、学習計画を立てる。 	
	<p>2 どんな新聞を作るかについて話し合う。</p>	
	<p>3 教材文を読み、新聞の特徴や作り方の手順、割り付けの工夫を学ぶ。</p>	
	<p>4 取材には、どんな方法があるかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P96 「アンケート調査のしかた」を確認する。 	
	<p>5 出来事や事柄を正しく伝えるために、どの取材のしかたがよいかを考え、取材をする。</p>	<p>○写真や動画を撮る。</p>
	<p>6 取材メモをもとに、割り付けを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いちばん大きく取り上げたいものは何か、取材した内容を分かりやすく伝えるために必要な大きさはどの程度かなどから、記事の大きさや場所を考える。 ・ 写真や図、表などの大きさや場所を考える。 	
	<p>7 取材メモをもとに、記事を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の新聞を参考に、記事の書き方を考える。 ・ 何を言葉で伝え、何を写真や図などで伝えるのかを考える。 ・ 伝えたい内容に合った見出しをつける。 	
	<p>8 記事を推敲し、清書して、仕上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P93 に示された観点で読み返す。 	
	<p>9 完成した学級新聞を読み合い、感想を伝え合う。</p>	<p>○</p>
	<p>10 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	
<p>夏の楽しみ</p> <p>◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)オ)</p> <p>■俳句を作る。</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材。(道徳)</p>	<p>1 挿絵や写真を見たり、俳句や短歌を読んだりして、夏の行事や様子を表す言葉を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・ 教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事やそれに関する言葉がないか、話し合う。 	<p>○ インターネットで調べる。</p>
	<p>2 「おりひめ」「たんざく」「ゆかた」など、夏の行事に関する言葉の一つ選んで、夏の行事の様子を表した俳句を作る。</p>	
	<p>3 俳句を読み合い、夏の行事の様子がよく表れていると思うところについて感想を伝え合う。</p>	

書 く	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
	書 く	漢字の広場④	1 教科書の絵を見て、学校の様子を想像し、3年生までに習った漢字を使って、文章を書く。
◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認し、間違いを直す。	
		3 書いたものを友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価し合う。	
世界にほこる和紙 【じょうほう】百科事典での調べ方 伝統工芸のよさを伝えよう		1 学習の見直しをもつ。 ・P43で、題名やリード文から伝統工芸や和紙に対するイメージを広げる。 ・単元全体に目を通し、説明する文章を読んで、その書かれ方の工夫を取り入れながらリーフレットを作るという学習の流れを捉える。 ・P43「これまでの学習」を参考に、これまでの説明的な文章や「書くこと」の学習で学んだことを振り返る。 ・『世界にほこる和紙』を読んで中心となる語や文を見つけて要約し、伝統工芸について調べたことを書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	
◎事典の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思・判・表C(1)ウ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■学校図書館などを利用し、調べて分かったことなどをまとめて書く。 ☆我が国の伝統と文化のすばらしさに感動し、大切にすることを育てる題材。(道徳)		2 「世界にほこる和紙」を読み、中心となる語や文を見つけて要約する。 ・筆者の伝えたいことは何かを考えながら読み、文章の構成を捉える。 ・まとまりごとに中心となる語や文を確認し、それを用いて文章全体を200字以内で要約する。 →上P86「要約するとき」 ・要約した文章を読み合い、要約のしかたについて気づいたことを伝え合う。	○ デジタル教科書を活用する。
		3 伝統工芸に関する本を読み、伝統工芸のよさが書かれていると思う部分を中心に要約する。 ・P52「百科事典での調べ方」を確認する。	
		4 要約した文章を読み合い、要約のしかたや伝統工芸のよさについて感じたことを伝え合う。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	
		5 伝統工芸についてのリーフレットを作る見直しをもち、調べたいものを決める。 ・P56-57の作例を見て、P53「学習の進め方」を確認し、学習の見直しをもつ。	
		6 選んだ伝統工芸について詳しく調べ、分かったことを書き出す。 ・目的に応じて本や資料を選んで読み、分かったことを書き出して、整理する。	○インターネットで調べる。

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
書		7 組み立てと資料の使い方を考える。 ・P56-57 の作例を読み、資料の使い方や参考図書の示し方等、リーフレットの書き方のよさを見つける。 ・P55 の組み立ての例と P56-57 の作例を結び付けて読み、自分の書く文章の組み立てや資料の使い方を考える。	
		8 考えた組み立てに沿って説明する文章を書く。 ・表紙や裏表紙を作って仕上げる。	
		9 完成したリーフレットを読み合い、分かりやすく 書いているところを伝え合う。	
		10 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「ふりかえろう」で単元全体の学びを振り返る。	
	<	慣用句 ◎長い間使われてきた慣用句の意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)オ) ■慣用句の意味を調べて例文を作る。	1 教材文を読み、昔から伝わる慣用句について知る。
		2 国語辞典を使って、P59 の慣用句の意味を調べる。 ・国語辞典にどのように例文が書かれているかを確認する。	
		3 国語辞典を作る人になったつもりで、提示された慣用句の例文を作る。 ・慣用句の意味を調べ、例文を作る。 ・作った例文を友達と交換し、正しく慣用句を使えているかどうか確かめ合う。	

書

く

	<p>単元名 (題材)</p>		<p>ICTの 効果的活用</p>
	<p>漢字の広場⑤</p> <p>◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ)</p> <p>・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	<p>1 教科書の絵を見て、休日の様子を想像し、3年生までに習った漢字を使って、文章を書く。</p>	<p>○</p>
		<p>2 書いたものを読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認し、間違いを直す。</p>	
		<p>3 書いたものを友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価し合う。</p>	
	<p>感動を言葉に</p> <p>◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■心を動かされたときのことを、詩に書く。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・これまでに詩を読んだり書いたりしたことを振り返ったり、毎日の生活の中で感動したことなどを想起したりする。 ・「心の動きを言葉にして、詩を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p>	
		<p>2 詩に書きたいことを決める。 ・最近心を動かされたことの中から、最も伝えたい題材を選ぶ。</p>	
		<p>3 詩の組み立てを考える。 ・「ニンジン」「およぐ」を読み、作者は何に心を動かされて詩を書いたのか、どんな書き方の工夫をしているのかについて考える。 ・見つけた詩の書き方の工夫が、自分の選んだ題材に使えるかどうかを考え、どんな組み立ての詩にするかを考える。</p>	
		<p>4 言葉を選んで、詩を書く。 ・心を動かされたときのことをたくさん書き出す。 ・言葉と言葉を組み合わせたり、順序を入れ替えたり、他の言い方がないか考えたりして書く。 ・書いた作品を読み返し、心が動かされたときのことが伝わる表現かどうかを確認し、整える。</p>	
	<p>5 友達の詩の工夫を見つける。 ・友達と詩を読み合い、よさを伝え合う。</p>		
	<p>6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押しさえる。</p>		

書

く

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
冬の楽しみ ◎言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■行事の楽しさを伝えるかるたを作る。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材。(道徳)		1 挿絵や写真を見たり、俳句を読んだりして、冬の行事や様子を表す言葉を考える。 ・絵を見て、自分の知っている言葉を書き出し、交流する。 ・教科書にはないが、自分の地域に伝わる行事を表す言葉がないか、話し合う。	○インターネットで調べる。
		2 自分の住む地域の冬の行事の楽しさを知らせるかるたを作る。 ・読み札と取り札の書き方を確認する。 ・地域の冬の行事の楽しさを表す語句を使って読み札を作り、それに対応した取り札を作る。 ・完成したかるたで遊んだり、読み札の表現で工夫しているところを見つけて伝え合ったりする。	
自分だけの詩集を作ろう ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ・書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ) ■テーマを決めて詩を集め、自分だけの詩集を作る。		1 三編の詩を読んで、感じたことを伝え合う。 ・三編の詩から想像される「月」が全く違うものであることや、自分と友達との感じ方に違いがあることに気づき、同じテーマで複数の作品を読むことの楽しさや感想を交流することのよさを知る。 ・テーマを決めて自分だけの詩集を作ることへの意欲をもつ。	
		2 テーマを決めて、詩を集める。 ・テーマとなる「共通点」を意識しながら、たくさんの詩を読む。 ・言葉の使い方や書かれ方に目を向け、集めた詩とその理由をノートに書き出す。	○インターネットで調べる。
		3 集めた詩の中から自分の詩集に載せる詩を選ぶ。 ・自分の意図するテーマが明確になるように、集めた中からどの詩を載せるか検討し、載せる順番を考える。	○オクリンクにまとめる。
		4 表紙や目次をつけて、本にする。 ・自分の意図するテーマについて、最後のページで説明をする。	
		5 できあがった詩集を読み合う。 ・友達と詩集を読み合い、テーマが伝わるかどうかや感じ方の違いについて交流する。	

書

く

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
漢字の広場⑥ ◎第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		1 教科書の絵を見て、1年間の出来事を振り返ったり想像したりし、3年生までに習った漢字を使って、学級新聞の記事を書く。	○
		2 書いた記事を読み返し、間違いを直すなどして推敲する。 ・漢字や送り仮名、句読点等が正しく使えているかを確認し、間違いを直す。	
		3 書いたものを友達と読み合い、正しく漢字が使われているか評価し合う。	
つながりに気をつけよう ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■つながりに気をつけて文章を書く。		1 学習の見通しをもつ。 ・自分の書いた文章について「分かりにくい」と感じた経験を想起する。 ・「つながりに気をつけて、分かりやすく書くポイントを見つけよう」という学習課題をもつ。	
		2 主語と述語の対応について考える。 ・例文や教師の用意した文の述語を書き直し、分かりやすい文に直す。	
		3 何を修飾しているのかを明確にすることについて考える。 ・例文や教師の用意した文に読点を打ったり、言葉の順番を入れ替えたりして、分かりやすくする。	
		4 一文の長さについて考える。 ・例文や教師の用意した文を、内容の切れ目で分けたり、省いたり、指示語に置き換えたりすることで分かりやすくする。 ・例文を読み、一文にまとめることで分かりやすくなることもあることを知る。	
		5 P104 の文章を、分かりやすくなるように書き直す。	

第5学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

課題の設定



情報の表現
あらわす



情報の収集
情報をあつめる



情報の発信
伝える



情報の分析・整理
情報をまとめる



情報活用の評価・改善
ふりかえる



お忙しい時期に大変申し訳ございませんがよろしく申し上げます。

	単元名	学習内容	ICTの 効果的活用
話す・聞く	<p>教えて、あなたのこと</p> <p>◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>■インタビューして、紹介する。</p>	<p>1扉の詩を読み、目次や、P6「国語の学びを見わたそう」、P11「つなげる・広げる」を見て、1年間の学習の見通しをもち、情報の整理のしかたについて確かめる。</p>	
		<p>2P12「教えて、あなたのこと」の活動のしかたを確かめる。</p>	
		<p>3二人一組になり、教科書に示された三つの内容について、インタビューをし合う。</p>	
		<p>4心に残ったことを一文にまとめる。</p>	
		<p>5クラス全体に向けて、友達を一文で紹介する。</p>	○
		<p>6学習を振り返る。</p>	
	<p>きいて、きいて、きいてみよう</p> <p>【コラム】インタビューをするとき</p> <p>6時間（話・聞⑥）</p> <p>◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>○話し言葉と書き言葉との違いに気づくことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■インタビューをし、報告し合う。</p>	<p>1学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P38-39を読み、活動のやり方を知った後、簡単なテーマでインタビューを実際に体験する。 ・「話の意図を考えてきき合い、『きくこと』について考えよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。 	○
		<p>2友達にきいてみたいことを挙げ、話題を絞る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを作り、インタビューの順番を決める。 ・話し手との関わりを思い出しながら、聞いてみたい話題をいくつか考え、その中から、その人の人柄を引き出せそうな話題に絞る。 	○
		<p>3インタビュー用のメモを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞った話題について、質問と予想される答えを考え、インタビュー用のメモを作る。 ・相手から話を引き出すための質問を考えておく。 	○
		<p>4活動のしかたや気をつける点を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P40-41を読み、聞き手、話し手、記録者の役割やインタビューの具体的なやり取り、報告のしかたなどについて、全体で確認する。 	○
		<p>5交代でインタビューをし合う。</p>	○
		<p>6記録したメモを基に報告の準備をする。</p>	○
		<p>7記録者が、インタビューの内容について報告を行い、気づいたことを伝え合う。</p>	○
		<p>8「きくこと」について考え、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P43「インタビューするとき」を読み、今後の活動につなげる。 	○
	<p>9学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	○	

	<p style="text-align: center;">単元名 (題材)</p>		<p style="text-align: center;">ICT の 効果的活用</p>
	<p>どちらを選びますか 2 時間 (話・聞②) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表 A(1)オ) ○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■立場に分かれて討論する。 ☆適切な資料を用意し、相手が納得する説明をする。(特別活動)</p>	<p>1 P96-97 を読み、学習の進め方を確認する。</p> <p>2 犬を薦めるチーム (二人) と、猫を薦めるチーム (二人) に分かれて、チームごとに、薦める理由を考え、ノートに書き出す。</p> <p>3 犬を薦めるチームと、猫を薦めるチーム、校長先生役 (一人) に分かれて、話し合いを行う。 ・校長先生役が司会をする。 ・それぞれのチームが意見を言った後、質疑応答をして、互いの考えの違いがはっきりするようにする。 ・各チームは質疑応答を踏まえて考えを整理し、改めて意見を言う。 ・校長先生役は、どちらの意見に説得力があったかを判定する。</p> <p>4 P97 「二つの立場から考える」を読み、学習を振り返る。</p>	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">モデル映像の視聴</p> <p style="text-align: center;">○</p>
	<p>よりよい学校生活のために 【コラム】意見が対立したときには 6 時間 (話・聞⑥) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表 A(1)ア) ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表 A(1)オ) ○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。(思・判・表 A(1)イ) ○話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表 A(1)エ) ■身の回りの問題を解決するために話し合う。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・学校生活の中で、こうなるといいなと思うことについて簡単に意見を出し合う。 ・「たがいの立場を明確にして、話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。</p> <p>2 学校生活の中から議題を決める。 ・新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を考え、ノートに書く。 ・書いたものを基に話し合い、クラスでその中から課題を一つに絞る。 ・選んだ課題を基に、議題を決める。</p> <p>3 自分の立場を明確にするため、考えを書き出す。 ・議題についての自分の意見を付箋などに書き出し整理しておく。</p> <p>4 P130 ③を読み、話し合いのしかたを全体で確認し、進行計画を立てる。 ・グループごとに司会や記録などの役割を決める。 ・進め方や時間配分を決める。</p> <p>5 P131-132 を読んで、話し合いのときに気をつけることを確認する。 ・「考えを広げる話し合い」「考えをまとめる話し合い」それぞれについて、意見の伝え方や質問のしかた、意見のまとめ方などを確認する。 ・P134 「意見が対立したときには」を読み、意見が対立したときの考え方を知る。</p> <p>6 計画に沿ってグループで話し合う。 ・前時の学習をいかして話し合う。 ・P248 「考えを図で表そう」なども参照しながら、各自が考えを書いた付箋を利用して整理する。</p> <p>7 話し合ったことをクラスで共有し、話し合いの中でよいと思ったことについて、感想を伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">ジャムボードで意見を集計して、決める</p> <p style="text-align: center;">ジャムで意見を整理する。</p> <p style="text-align: center;">○モデル映像を視聴する</p> <p style="text-align: center;">ジャムボードで意見を整理する。</p>

	<p style="text-align: center;">単元名 (題材)</p>		<p style="text-align: center;">ICT の 効果的活用</p>
	<p>提案しよう、言葉とわたしたち 6時間 (話・聞⑥)</p> <p>◎話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を 考えることができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができ る。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。 (知・技(1)ア)</p> <p>○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関 係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。(知・ 技(1)オ)</p> <p>■提案するスピーチを行う。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中での言葉の使い方について、課題だと思ふことを話し合う。 「事実と感想、意見とを区別して、説得力のある提案をしよう」という学習課題を設定し、学習計画を 立てる。「学習の進め方」を確かめる。 <p>2 提案したいことを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活の中での言葉の使い方について、課題だと感じることを書き出す。 解決するための方策を考える。 <p>3 目的に応じて根拠となる情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、アンケートやインタビューで身の回りのことを調べたり、本や新聞、インターネットな どから情報を集めたりする。 <p>4 スピーチの内容や構成を考えて、スピーチメモと提案する資料を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> P213「スピーチメモの例」やP214「スピーチの例」を見て、スピーチの構成を確かめる。 事実と感想、意見の区別を検討したり、資料の提示について考えたりする。 構成や資料の内容が決まったら、スピーチメモや提示資料を作成する <p>5 スピーチの練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 声の強弱や話す速さ、間の取り方、表現のしかたなどに気をつけて練習する。 互いに聞き合い、助言し合う。 <p>6 スピーチの会を行う。</p> <p>7 スピーチを聞き合って、感じたことを伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p></p> <p></p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">オクリンクに 情報を集める</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">オクリンクで発 表スライドを作 成する。</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p></p> <p></p>

書

く

単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
<p>日常を十七音で 3時間 (書⑨)</p> <p>◎俳句の構成や書き表し方などに着目して、俳句を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○俳句に対する感想を伝え合い、自分の句のよいところを見つめることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>■俳句を作る。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P60 の二つの例について、感想を話し合う。 ・「言葉をよりすぐって俳句を作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。 	
	<p>2 P61 の例文を参考に、生活の中で気づいたことや、驚いたことなどを短い文章で書き留め、俳句を作る材料を集める。</p>	<p>○</p> <p>ジャムで集めた言葉を共有する。</p>
	<p>3 材料を基に、五・七・五の十七音で俳句を作る。</p>	
	<p>4 P62 を参考に、作った俳句の表現を工夫し直す。</p>	
	<p>5 作った俳句を友達と読み合い、言葉や表現を工夫したところを説明したり、友達の俳句についての感想を伝えたりする</p>	<p>○</p>
	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	
	<p>みんなが過ごしやすい町へ 10時間 (書⑩)</p> <p>◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つめることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>■報告する文章を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある、みんなが過ごしやすい場所になるために行われている工夫について、知っていることを話し合う。 ・「調べたことを正確に報告しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。
<p>2 身の回りの工夫を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校の様子を想起したり、実際に見学したりして、題材を探す。 		
<p>3 題材を決め、調べ方を選んで調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたものから、特に調べたいものを選ぶ。 ・P73 に示された調べ方の特徴を参考に、適切な方法を選んで調べる。 ・P70 「目的に応じて引用するとき」などを参照して、カードの書き留め方について振り返る。 		<p>○</p> <p>スプレッドシートにリンク集を作る</p>
<p>4 報告する文章の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P74 に示されている報告文の構成や、「組み立てメモ」を参考にする。 		<p>○オクリンクで組み立てメモを作る</p>
<p>5 報告する文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P75 「文章を長く引用するとき」を参照し、長文を引用するときに方法について知る。必要に応じて、短い引用のしかたについても復習する。 ・P75-76 を参考に下書きを書く。 ・ペアで下書きを読み合い、P75 上段に示された観点を参考に助言し合う。 ・清書する。 		
<p>6 読み合って感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなところが分かりやすいか、また、それはなぜなのかに注目する。 		
<p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 		

	単元名 (題材)		ICTの 効果的活用
	<p>グラフや表を用いて書こう 固有種が教えてくれること 【情報】統計資料の読み方 グラフや表を用いて書こう 11時間(知・技①,書⑤,読⑤)</p> <p>◎情報と情報との関係づけのしかた,図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎引用したり,図表やグラフなどを用いたりして,自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎目的に応じて,文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり,論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>■筆者の説明の工夫について,考えをまとめて話し合ったり,統計資料を根拠に,意見文を書いたりする。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・P137の題名・教材名やリード文を読み,これから学習する文章についてイメージをもつ。 ・「資料を用いた文章の効果を考え,それをいかして書こう」という学習課題を設定し,学習計画を立てる。「これまでの学習」を確認する</p> <p>2 教師の範読や朗読CD,指導者用デジタル教科書の朗読音声を開き,初発の感想を書く。</p> <p>3 文章の構成を整理し,内容を捉える。 ・「初め」「中」「終わり」のまとまりを確かめる。 ・「初め」「終わり」で書かれている,筆者の考えの中心を捉える。 ・「中」の段落に見出しをつけて内容を整理し,「中」を二つに分ける</p> <p>4 筆者が図表やグラフ,写真を使った意図と効果を考え,要旨を捉える。 ・P148の「統計資料の読み方」を読み,資料を読むときに気をつけることを確認する。 ・文章の要旨を150字程度でまとめる。</p> <p>5 筆者の考えや論の進め方について,自分の考えをまとめる。 ・図表などの効果にも触れるようにする。 ・図表などが使われている本などを読み,図表を用いる効果についてまとめる。</p> <p>6 5でまとめたことや,図表を用いて書くときにいかしたいことをグループで出し合う。</p> <p>7 「今,生きている社会はくらしやすい方向に向かっているか」について,自分の考えをもつ。P149「学習の進め方」を読み,意見文を書くことについて学習の見直しをもつ。</p> <p>8 統計資料を調べたり,P150-151のグラフや表を参考にしたりして,自分の考えに合う資料を集める。</p> <p>9 図表を用いて書くときの方法について考える。 ・P152の作例を読み,気づいたことや気をつけることを出し合う。 ・「固有種が教えてくれること」の学習で学んだ図表などの用い方を振り返る。</p> <p>10 グラフや表を用いて,意見を文章に書く。 ・「自分の考え」「グラフや表の説明とそれをもとに考えたこと」「まとめ」の組み立てで,何を,どの順序で書くか決める。 ・グラフや表を用いて書く。</p> <p>11 書いた文章を友達と読み合い,説得力があるところについて,意見や感想を交流する。</p> <p>12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに,「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>○ インターネットや本</p> <p>○ 集めた情報をオクリンクに まとめ,組み立てを考える</p> <p>○</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>読み手が納得する意見文を書こう あなたは、どう考える 6時間(書⑥)</p> <p>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>○文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>■意見文を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・ 普段の生活で気づいたことや、他の人の意見に共感したり、意見をもったりした経験について発表する。 ・ 「読み手が納得する意見文を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。</p> <p>2 自分の関心のあることから題材を決め、自分の考えをもつ。 ・ P178の作例を読み、意見文のイメージをもつ。 ・ 題材を決めるときには、P175「題材の例」や投書の例を参考にする。 ・ 主張を明確にし、理由、根拠を書き出していく。</p> <p>3 自分の考えを見直したり、グループで見せ合ったりして、他の立場から自分の考えを見直す。 ・ 主張や理由、根拠について、説得力があると感じた点や補った方がよい点を、友達と伝え合う。 ・ 友達の意見を基に、自分の主張に対する反論を予想する。 ・ 必要に応じて、情報を集め直すなど、自分の考えを深めていく</p> <p>4 文章の構成を決める。 ・ P177「構成の例」を参照して、集めた情報のうち、どれをどの順番で取り上げるかを考える</p> <p>5 構成を基に、意見文を書く。 ・ P175「岡本さんの投書」とP178「木原さんの意見文」を読み、それぞれの工夫を考えたり、内容について意見をもったりする。 ・ 考えた構成を基にしながら、意見文を書く。</p> <p>6 書いた文章を読み返して、文章を整える。 ・ 事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないか等の観点で推敲する。</p> <p>7 意見文を読み合って、説得力のある書き方だと思ったところを中心に伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p></p> <p>○ 根拠をインターネットや本を活用して収集する</p> <p>○ スライドの順序を入れ替えて順序を考える。</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>この本、おすすめします 7時間 (書⑦)</p> <p>◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ)</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>○文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)カ)</p> <p>■推薦する文章を書く。</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を推薦したりされたりした経験を話し合う。 ・「相手や目的を明確にして、すいせんする文章を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。「学習の進め方」を確認する。 <p>2 どんな人に、どんな本を推薦するかを考え、本の内容や推薦する理由をノートに書き出す。</p> <p>3 推薦文の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手の特性を踏まえ、どんな内容を、どの順で伝えるかを考える。 <p>4 推薦文の下書きを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P208 の作例や解説を読んで、分かりやすいところ、工夫しているところや、改善できるところについて出し合う。 ・実際に推薦文の下書きを書く。 ・友達と読み合い、よりよい推薦文となるよう助言し合う。 <p>5 相手が読みやすいように書き方を工夫して、清書をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手に合った表記・表現や見せ方となるよう工夫する。必要に応じて助言し合う。 <p>6 清書した作品は、読み合って感想を伝え合い、よいところを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品は学校図書館に掲示して、下級生に読んでもらう <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	

第6学年

情報活用能力の観点から設定した国語科カリキュラム

情報活用能力とは、情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していくための個人の基礎的資質のことである。

本校は児童に情報活用の実践力を身に付けさせることで、情報活用能力の育成を図っていく。そのために、国語科の「話す・聞く」「書く」の学習の中で、情報活用の実践力を養う学習内容を選定し、学習過程に関連付けて指導を行うようにしたい。

課題の設定



情報の表現
あらわす



情報の収集
情報をあつめる



情報の発信
伝える



情報の分析・整理
情報をまとめる



情報活用の評価・改善
ふりかえる



話す・聞く

	単元名	学習内容	ICTの 効果的活用
	<p>つないで、つないで、一つのお話 1時間（話・聞①）</p> <p>◎自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ）</p> <p>○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア）</p> <p>■グループで一人一人ずつつないで、一つのまとまった話を作る。 ☆よりよい人間関係の形成（特別活動）</p>	<p>1 扉の詩を読み、目次や、P6「六年生の国語の学びを見わたそう」を見て、既習事項を確かめ年間の国語学習を見通すとともに、P11「ものの考え方、伝え方」で、情報を整理して伝える言い方を使っていくことを確認する。</p> <p>2 「つないで、つないで、一つの話」の活動の目的と流れを確かめる。</p> <p>3 最初と最後の一文を決め、グループで二周する間に物語がつながるようにお話を作る。時間に余裕があれば、「もっと楽しもう」に挑戦する。</p> <p>4 友達とお話を作ってどう感じたか、活動の振り返りをする。</p>	
	<p>聞いて、考えを深めよう 6時間（話・聞②）</p> <p>◎話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)エ）</p> <p>○文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。（知・技(1)カ）</p> <p>■意見を述べ合ったり、それを聞いたりして自分の考えをまとめる。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・話の聞き方や、聞いて自分の考えが変わることについて、P7「五年生の学びを確かめよう」などを用いて振り返る。 ・「話の内容をとらえて、自分の考えをまとめよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 話題を確かめ、自分の考えを整理する。 ・P41の例を参考に話題を決め、賛成・反対の立場をはっきりさせて、具体的な理由を挙げながら考える。</p> <p>3 話題について、友達から聞きたいことを考える。 ・P41「話を聞くときの観点」を参考に、自分の考えを深めるために、友達からどんなことを聞きたいかを明らかにしておく。</p> <p>4 グループで考えを聞き合う。 ・つなぎ言葉や文末表現、意見と理由、事例とのつながりに気をつけて聞く。</p> <p>5 出た意見をもとに自分の考えを深め、グループで交流する。</p> <p>6 話を聞くときに大事なことについてまとめ、学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。</p>	<p>○ ジャムボードで賛成、反対の色分けをして出し合う。</p>

単元名 (題材)	学習内容	ICTの 効果的活用
<p>いちばん大事なものは 2時間 (話・聞②)</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■メンバーを変えながら、考えを尋ね合う。</p>	<p>1 これからの生活の中で、どんなことを大切にしていきたいか、自分の考えを書く。 ・P94 吹き出しの例を参考にする。</p> <p>2 三人一組のグループを作り、考えを聞き合う。 ・互いの考えがよく分かるように、考えた理由や、これまでの経験などを尋ね合う。 ・二度メンバーを入れ替えて、同様に互いの考えを聞き合う。 ・最後に、初めのグループに戻って、印象に残った友達の考えや、広がったり深まったりした自分たちの考えを交流する。</p> <p>3 最終的な自分の考えをまとめ、学習を振り返る。 ・書いたことを読み合い、「いちばん大事なもの」についての互いの考えや、対話の意義について交流する。</p>	<p>○</p> <p>オクリンクのボードに意見を書き、グループ内で送り合う。</p>
<p>みんなで楽しく過ごすために 【コラム】伝えにくいことを伝える 6時間 (話・聞⑥)</p> <p>◎言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>○情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>■それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う。 ☆探究的な課題の解決に関わる題材 (総合的な学習の時間) ☆主として人との関わりに関することを考えさせる題材 (道徳)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ ・これまでに行ってきた話し合いを想起し、話し合いのしかたについての知識を出し合う。 ・「目的や条件に応じて、計画的に話し合おう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 議題を確かめ、目的や条件をはっきりさせる。</p> <p>3 司会や記録係などの役割をグループごとに決めて、話し合いの進行計画を立てる。</p> <p>4 目的や条件に合わせて、自分の考えを明確にする。 ・主張や理由、根拠が明確になるよう、図や表で整理する。</p> <p>5 進行計画に沿って、グループで話し合う。 ・話し合いの目的や、それぞれの考えの共通点・相違点、利点・問題点などを明確にする。 ・計画に沿って、考えを広げる話し合いと、考えをまとめる話し合いのしかたを使い分ける。 ・話し合いの過程を視覚的に共有できるように、P135「記録用紙の例」や、P254「考えを図で表そう」を参考に、図や表を使って記録する。 ・話し合いで決まった仮の結論を実際に試してみて、改善点などについてさらに話し合う。</p> <p>6 意見の伝え方について考える。 ・P138-139「伝えにくいことを伝える」を読み、それぞれの場面について、表情や口調、表現のしかたなどについて考える。</p> <p>7 話し合った結果や感想をクラス全体で共有し、学習を振り返る。 ・目的や条件に応じて話し合うこと、計画的に話し合うことについて、大事なことを振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>○</p> <p>ジャムボードで出し合い、分類する。</p> <p>○</p> <p>伝える時に表情や話し方を動画にして確認する。</p>

書

く

単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
<p>春のいぶき 2時間 (書②)</p> <p>◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア)</p> <p>■身の回りで感じる「春」を俳句や短歌で表す。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)</p>	<p>1 「春のいぶき」という言葉からイメージするものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りで感じた「春」を交流する。 ・教科書で示されている二十四節気、短歌、俳句を声に出して読む。 	<p>○</p> <p>ジャムボードで「春」に関する言葉を集める。</p>
	<p>2 自分の地域で感じる「春」を俳句や短歌の形式に表して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句や短歌の形式や決まりを確かめる。 ・自分の感じる春が表れるような言葉を選んで作る。 	
	<p>3 書いた作品をグループで読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語感や言葉の使い方、選び方など、表現の工夫に着目して感想を伝え合う。 	
<p>たのしみは 3時間 (書③)</p> <p>◎構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えることができる。(思・判・表 B(1)オ)</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>○短歌に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)カ)</p> <p>■短歌を作る。</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題として、「言葉を選んで、短歌を作ろう」を設定し、学習計画を立てる。 	<p>○</p> <p>ジャムボードで自分が楽しいと感じることを出し合う。</p>
	<p>2 短歌にしたい場面を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P61の短歌二首を読み、内容の大体を理解する。 ・自分の中の「たのしみ」を想起し、心に残っていることを言葉に書き表す。 	
	<p>3 言葉を選び、表現の工夫を考えながら短歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌のリズムや決まりを確かめる。 ・言葉を入れ替えたり、語順を変えたりするなど表現の工夫をする。 	
	<p>4 短歌を短冊に書き、グループで読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材や表現のしかた、言葉の使い方に着目して感想を伝え合う。 	
	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。 	

	<p style="text-align: center;">単元名 (題材)</p>		<p style="text-align: center;">ICT の 効果的活用</p>
	<p>【情報】情報と情報をつなげて伝えるとき 2時間(書②)</p> <p>◎情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■条件に応じて、報告書を書き直す。</p>	<p>1 情報を整理して伝えることについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P68を読み、身近な例を取り上げて、情報と情報にはどのような関係があるか、またその関係をどう整理して伝えるかを知る。 <p>2 例文を使って、情報と情報をどうつなげて伝えればよいのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P69の設問に沿って、集めた情報がどのような関係にあるのか、また、どのようにつなげると文意が伝わるのかを考え、書き表す。 ・書いたものを交流して、情報と情報をつなげて伝えるときに大事なことをまとめる。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いかそう」を読み、書くときだけでなく、文章を読むときにも、情報と情報の関係に着目するとよいことを確認する。 	<p style="text-align: center;">○</p> <p>オクリンクでカードを並べ替えて文章構成を見直す。</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>私たちにできること 10 時間 (書⑩)</p> <p>◎筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。 (思・判・表 B(1)イ)</p> <p>○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 (思・判・表 B(1)ア)</p> <p>○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ)</p> <p>■提案する文章を書く。</p> <p>☆探究的な課題の解決に関わる題材 (総合的な学習の時間)</p> <p>☆自然環境を大切にすることを育てる題材 (道徳)</p>	<p>1 学習の見直しをもつ。 ・「具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・P70-71 を読み、身の回りで自分たちが取り組めそうなテーマについて考える。</p> <p>2 提案文を書くための資料を集める。 ・テーマに応じて、学校図書館やインターネットで調べたり、インタビューをしたりして情報を収集する。</p> <p>3 グループで、問題点や解決策など具体的な事例を取り上げながら、提案内容について話し合う。</p> <p>4 提案文の構成を考える。 ・提案のきっかけや内容の骨子を確認しながら文章の組み立てを考える。 ・P68「情報と情報をつなげて伝えるとき」を参考に、情報どうしの関係に気を配る。</p> <p>5 グループで提案文の下書きをする。 ・「提案するときに使う言葉」を参考に、内容のまとまりごとに分担するなどして書く。</p> <p>6 下書きをグループで検討して清書する。 ・P74 の作例を参考に、内容や書き表し方の工夫について、意見を出し合って推敲する。</p> <p>7 書いた提案文を他のグループと交流する。 ・分かりやすい、説得力がある書き方だと感じた部分を伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」を読んで、身につけた力を押さえる。</p>	<p></p> <p>○ インターネットで調べる。</p> <p>○ ジャムボード問題点や解決策を色分けして出し合い、分析する。</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	夏のさかり 2時間 (書②) ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■ 季節を感じる言葉を用いて手紙を書く。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)	1 「夏のさかり」という言葉からイメージするものを発表する。 ・身近で感じた「夏」を伝え合う。 ・教科書で示されている二十四節気という言葉や解説、短歌や俳句を音読する。	○ ジャムボードで「夏」に関する言葉を集める。
		2 自分の地域で感じた「夏」を知らせる手紙を書く。	
		3 書いた手紙を友達と読み合い、よさを共有する。 ・言葉の選び方や書き表し方など、表現に着目して感想や助言を伝え合う。	
	秋深し 2時間 (書②) ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ) ○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■ 自分の地域で見つけた「秋」を俳句や短歌で表す。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)	1 「秋」を感じる言葉を出し合う。 ・二十四節気の「秋」を示す言葉の意味を、解説を読んで確かめる。 ・教科書の短歌や俳句を声に出して読み、おおまかな意味を捉える。	○ ジャムボードで「秋」に関する言葉を集める。
		2 「秋」をテーマに俳句や短歌を作る。 ・俳句や短歌の決まりを確認する。 ・自分の地域で見つけた「秋」が表れるような言葉を選んで作る。	
		3 創作した俳句や短歌を交流し、学習を振り返る。 ・「秋」を感じる表現のしかたに着目して、助言や感想を伝え合う。	

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>『鳥獣戯画』を読む 【情報】調べた情報の使い方 日本文化を発信しよう 11 時間 (知・技①, 書⑤, 読⑤) ◎筋道の通った文章となるように, 文章全体の構成や展開を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ) ◎引用したり, 図表やグラフなどを用いたりして, 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)エ) ◎目的に応じて, 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり, 論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表 C(1)ウ) ○日常的に読書に親しみ, 読書が, 自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■学校図書館などを利用し, 複数の本や新聞などを活用して調べた情報を知らせるパンフレットを作る。 ☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会, 道徳) ☆題材「鳥獣人物戯画」(図画工作)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・ P141 で, 教材名やリード文から『鳥獣戯画』や日本文化に対するイメージを広げる。 ・ P8-10「五年生の学びを確かめよう」や P56 でこれまでの学習を振り返り, 「筆者のものの見方や表現の工夫を捉え, それをいかして日本の文化について説明しよう」という学習課題を設定し, 学習計画を立てる。</p> <p>2 『鳥獣戯画』を読むを, 絵と文章を照らし合わせながら読み, 内容を捉える。</p> <p>3 筆者のものの見方や, それを伝えるための工夫について気づいたことをまとめる。 ・ 「絵」と「絵巻物」に対する筆者の評価が分かる表現を押さえる。 ・ 論の展開, 表現の工夫, 絵の示し方という点から, 筆者の工夫について考える。</p> <p>4 学校図書館などを利用して日本文化について書かれた本を読み, 表現の工夫について交流する。 ・ 説明のしかたや評価の述べ方, 写真や絵の使い方などで, 自分が真似したいことを書き出す。 ・ 書き出したことをもとに, グループで交流する。 ・ 「たいせつ」を読み, 筆者の考えと表現の工夫について学んだことを振り返る。</p> <p>5 グループで題材を決め, どんなパンフレットを作るか構想を練る。</p> <p>6 決めた題材について詳しく調べる。 ・ P152 を参考に, 引用のしかたや出典の示し方, 著作権の尊重について確かめる。</p>	<p>○ デジタル教科書で写真に印をつけたり, 文章に線を引いたりする。</p> <p>○ インターネットで調べる。</p>
		<p>7 パンフレットの目的に応じてその構成を決め, 役割分担をする。</p> <p>8 割り付けを決め, 下書きを書く。 ・ P155 を参考に, 割り付けや下書きのしかたを考える。 ・ 書いた下書きをグループで読み合い, 話し合って記事の内容や表現を検討する。</p> <p>9 清書し, パンフレットを完成させる。</p> <p>10 各グループのパンフレットに対する感想を伝え合い, 学習を振り返る。 ・ 工夫されていると感じた表現や, 絵・写真の使い方, 今後にかきたいことなどを伝え合う。 ・ 「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに, 「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>大切にしたい言葉 6時間 (書⑥)</p> <p>◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>■座右の銘について、自分の経験と結び付けて書く。</p> <p>☆自分の生き方に対する関心を促す題材 (道徳)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。 ・P176 のリード文やP8「五年生の学びを確かめよう」を読み、学習の進め方を確かめる。 ・「書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。</p> <p>2 座右の銘にしたい言葉を決める。 ・選んだ言葉と、それに結び付く経験を思い出し、友達と話す。</p> <p>3 文章構成を考える。 ・字数を決め、「初め・中・終わり」にそれぞれ何を書くか、構成メモにまとめる。</p> <p>4 下書きをし、読み合って推敲する。 ・詳しく書くとよいところや、自分の考えを表すのにふさわしい言葉を吟味する。</p> <p>5 書き表し方を工夫して清書する。</p> <p>6 読み合って感想を伝え、単元を振り返る。 ・心を動かされた内容や表現について伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。</p>	<p>○ 写真を撮影してスライドに貼り付け、コメントし合う。</p>
	<p>冬のおとずれ 2時間 (書②) ◎語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにするとともに、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■季節の言葉を用いた手紙を書く。</p> <p>☆我が国の文化や伝統への理解と関心を深める題材 (社会、道徳)</p>	<p>1 冬のイメージを広げる。 ・二十四節気の意味を確かめ、教科書の中の短歌や俳句を音読する。 ・自分が「冬」を感じる言葉を考える。</p> <p>2 自分が住む地域の「冬」の様子を手紙に書く。</p> <p>3 互いの手紙を読み合い、学習を振り返る。 ・感想を伝え合い、「冬」を感じる言葉について、認識を広げたり深めたりする。</p>	<p>○ ジャムボードで「冬」に関する言葉を集める。</p>

	単元名 (題材)		ICT の 効果的活用
	<p>思い出を言葉に 7時間 (書⑦)</p> <p>◎目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎作品全体の構成や展開が明確になっているかなど、作品に対する感想や意見を伝え合い、自分の作品のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)カ)</p> <p>○比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○作品全体の構成や書き表し方などに着目して、作品を整えることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>■学校生活の思い出を俳句・短歌・詩などの形式で書く。 ☆学校生活の充実に関わる題材 (特別活動) ☆よりよい学校生活, 集団生活の充実に関わる題材 (道徳)</p>	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年間で最も印象に残った出来事について話し合う。 ・これまでの「書くこと」の学習で身につけてきたことを振り返り、「伝えたい思いを明確にして書こう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 	
		<p>2 伝えたいことを明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印象に残っている出来事を詳しく思い出し、自分にとっての意味や価値などを考えて、伝えたいことを書き出す。 ・書き出したことの中から、何を中心に取り上げるのかを考える。 	
		<p>3 形式を決め、表現を工夫して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P204「人を引きつける表現」や、P307「言葉の宝箱」を参考にして表現を選び、作品として仕上げる。 ・誤字等がないか、声に出して読むなどして確かめ、推敲する。 	
		<p>4 作品を読み合って感想を交流し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの表現からどのような思いが伝わったか、感想を伝え合い、自分の作品のよさを見つける。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	